beatサービス ユーザーズガイド

はじめに

beat/basic サービス、beat ブランチサービスをご利用いただき、まことにありがとうございます。

このユーザーズガイドは、beat サービスをはじめてお使いの方を対象として、beat-box3 の設置や利用の注意、beat サービスの紹介、利用する手順、困ったときの対処法などをまとめたものです。

beat-box3 は電源のオン／オフの方法や設置条件などが通常のネットワーク機器とは若干異なりますので、必ずこのユーザーズガイドの指示に従ってください。

このユーザーズガイドの内容の大半は beat 設定ページのオンラインヘルプにも記載されていますが、読み終わった後も大切に保管してください。

2007 年 10 月
富士ゼロックス株式会社

・本ガイドに記載されている条件に従い機械を設置し、また本ガイドに記載されている方法で機械を扱ってください。そうでない場合には、故障や事故の原因となることがあり、責任を負いかねる場合がありますので、ご了承ください。
・本サービスは、日本国内において使用することを目的としています。本サービスの構成要素である機械も日本国内における使用を目的としています。諸外国の安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によって異なります。機械をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信妨害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

受信障害について
ラジオの雑音、テレビなどの画面に発生するチラツキ、ゆがみがこの商品による影響と思われましたら、この商品の電源スイッチを一旦切ってください。電源スイッチを切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法を組み合せて障害を防止してください。
・本機とラジオやテレビ双方の位置や向きを変えてみる。
・本機とラジオやテレビ双方の距離を離してみる。
・この商品とラジオやテレビ双方の電源を別系統のものに変えてみる。
・受信アンテナやアンテナ線の配置を変えてみる。（アンテナが屋外にある場合は電気店にご相談ください。）
・ラジオやテレビのアンテナ線を同軸ケーブルに変えてみる。

本機器は JIS C 61000-3-2（高調波電流発生限度値）に適合しています。

このガイドに関する注意

本ガイド使用上の注意

①本ガイドの内容の一部または全部を無断で複製・転載することはおやめください。
②本ガイドの内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③本ガイドに、誤り、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。なお、最新の正誤表は、beat-box の beat 設定ページのオンラインヘルプからダウンロード可能です。

本ガイドの表記について

本ガイドでは、操作ボタンやダイアログボックスなどを次のように記述しています。

◎ボタンや項目、メニューの選択項目など、クリックして選択できるものには[ ]でくくります。また、ダイアログボックス名なども[ ]でくくります。
　例：［スタート］ボタン、［ネットワーク］ダイアログボックス

◎入力する文字は「 」でくくります。
　例：「workgroup」

◎beat-box ごと、または利用者ごとに異なる文字列は＜ ＞でくくります。
　例：＜ご使用の beat-box のドメイン名＞

◎メニューやアイコンなどにマウスポインタを合わせることを「ポイント」と表記します。
　例：表示されたメニューから［設定］をポイントし、［コントロールパネル］をクリックします。

本ガイドで用いられる用語について

お客様ドメイン

「ドメイン名登録申請書」または「レジストラ変更申請代行申込書」に指定されたお客様の独自のドメインです。独自のドメインが指定されない場合には、お客様ドメインは“intranet”になります。beat/idc をご利用の場合に利用者に対応して自動的に作成されるメールアドレスのドメイン（“@”よりも右側）は、お客様ドメインとなります。

beat-box ドメイン

オプションサービスをご利用になる際には、beat-box ドメインにお客様ドメインのサブドメインが付加されることがあります。その場合には、別途お知らせします。

Microsoft、Windows、MS-DOS および Outlook は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Apple、Mac、Macintosh および Finder は米国およびその他の国々で登録された Apple Computer Inc.の商標です。

JavaScript およびすべての JavaScript 関連の商標は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

サイボウズはサイボウズ株式会社の登録商標です。

リモートメールは株式会社 fonfun の商標です。

beat-box の名称について

beat-box には、beat-box、beat-box2、beat-box3 の 3 種類あります。本ガイドでは、beat-box3 固有の事項に述べたものについては「beat-box3」と表記し、全種類の beat-box に共通の内容については、「beat-box」と表記します。

このガイドの内容

本書には以下の内容を記載しています。

■ beat-box 編

beat サービスのコンポーネントの1つである beat-box3 を利用していただくために必要なことをお知らせします。

1. 安全上の注意

beat-box3 を安全かつ正常に利用していただくための警告や注意です。使用前に必ずお読みください。

2. 各部の名称とはたらき

beat-box3 のジャックやインジケータなどのはたらきについて説明します。

■ スタートアップ編

beat サービスを使い始めるために必要なステップをお知らせします。

3. ガイドなどの内容紹介

beat サービスでは、ユーザーズガイド（本書）だけでなく、beat-box 内にあるオンラインヘルプをブラウザでお読みいただけるようにしています。ここでは、オンラインのものも含め、beat サービスが提供するガイドやマニュアルの内容をご紹介します。

4. beat サービスの紹介

beat サービスを理解していただくための簡単な説明を行っています。beat サービスをご利用になると、何のために何ができるのかを理解していただくことを目的としています。

5. 利用ステップ

beat サービスを使い始めるまで必要なステップを説明します。

6. LAN 構築ガイド

社内ネットワークの構築方法の概要を説明します。

■ PC 初期設定編

利用ステップの一つとして、PC の初期設定が必要となります。その方法を説明します。

7. PC 初期設定の概要

8. Windows のネットワークの設定

9. Windows のブラウザの設定

10. Macintosh のネットワークの設定

11. Macintosh のブラウザの設定

■ 困ったときの対処編

beat サービスのトラブルに対する対処方法を説明します。

12. 困ったときの対処の仕方

オンラインヘルプ、本ユーザーズガイド、beat コンタクトセンターという 3 通りの対処方法について説明します。

13. beat コンタクトセンターとは

beat コンタクトセンターの役割や受付時間などについて説明します。

14. beat-box と接続できない場合の対処

beat-box のオンラインヘルプを参照可能とすることに絞った対処方法を説明します。

控えておきましょう

目次

beat-box 編

スタートアップ編

PC 初期設定編

困ったときの対処編

beat-box 編

1. 安全上の注意

beat サービスでは、サービス提供のためにお客様の指定した場所に beat-box3 というネットワークサーバーを設置します。ここでは、beat-box3 や beat サービスを安全にご利用いただくため、使用上の注意事項を記載しています。beat-box3 の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、beat-box3 をご使用になる前に必ず最初に本章をお読みのうえ、正しくご利用ください。また、読み終わった後も本ユーザーズガイドは大切に保管し、ご不明な点がありましたときにもご利用ください。

■ 記号の説明

本章では次の記号を用います。

表示を無視した場合に発生する危害や損害の度合いを示す記号		
	危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があると思われる事項があることを示しています。
	注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負うことが想定される内容および物的損害の発生が想定される事項があることを示しています。

お守りいただくべき内容を示す記号（一例）		
	注意	この記号は、製品を取り扱う際に注意すべき事項があることを示しています。指示内容をよく読み、製品を安全にご利用ください。
	禁止	この記号は、行ってはならない禁止事項があることを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。
	強制	この記号は、必ず行っていただきたい指示事項があることを示しています。指示内容をよく読み、必ず実施してください。

■ 設置および移動に関する警告や注意

beat-box3 の設置は販売者の指定する技術者が行いますが、設置後の環境変化もありますので、ここでお願いする内容をご理解いただき、問題があれば弊社までご連絡ください。

また、お客様ご自身で beat-box3 を移動、移設または廃棄することはできません。beat-box3 を移動および移設する場合は必ず弊社までご連絡ください。また、beat サービスの契約解除後は必ず弊社に beat-box3 を返却してください。

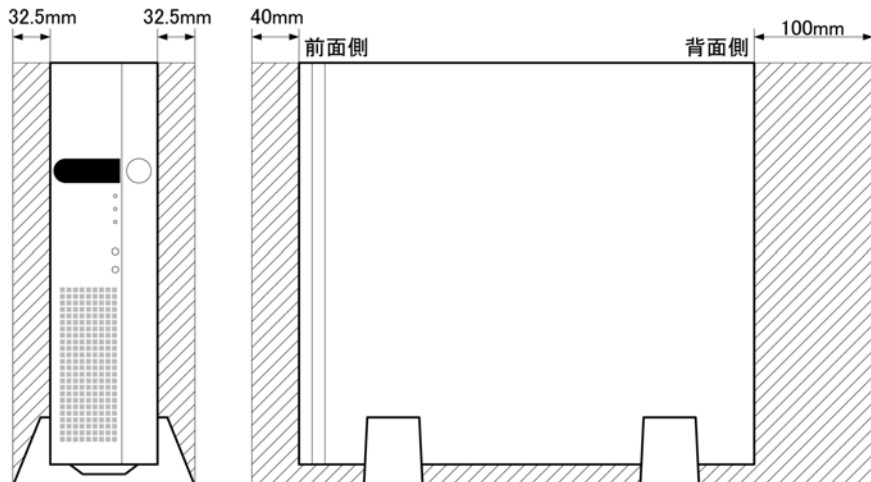
⚠ 警告

beat-box3 の前面、背面には給排気口があります。給排気口をふさぐと内部に熱がこもり、誤動作、故障、火災の原因となるおそれがあります。なお、設置は弊社担当者におまかせください。

beat-box3 は室温 5～40℃、湿度 20～80%の環境に設置してください。この範囲外の環境では、誤動作、故障の原因となるおそれがあります。

beat-box3 を直射日光が当たる場所に設置しないでください。beat-box3 内部の温度上昇や、温度センサーが誤動作するおそれがあります。

beat-box3 設置の際は必ずペデストール（足）を装着してください。また、必ず縦置きに設置してください。また、壁などから最低限以下の空間を設けてください。十分な空気の流れが確保できなくなり、内部に熱がこもり、誤動作、故障、火災の原因となるおそれがあります。

- 背面と壁や棚板などとの最低距離： 100mm
- 側面と壁や棚板などとの最低距離： 32.5mm
- 前面と壁や棚板などとの最低距離： 40mm

電源プラグは、定格電圧 100V で、定格電流『15A』以上のコンセントに差し込んでください。他の機器を同一のコンセントに差し込む場合は、電流の合計がコンセントの定格を越えないよう注意してください。また、たこ足配線をしないでください。発熱による火災や感電のおそれがあります。なお、本機の定格電源は 100V、1.0A となっています。

電源の延長コードを使用する場合は、定格(『125V、15A』)未満のものは使用しないでください。発熱による火災のおそれがあります。

付属の電源コード以外を使用しないでください。火災、感電、故障のおそれがあります。また、付属の電源コードを他の機器に使用しないでください。

注意

beat-box3 を移動するときは、弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。お客様独自での beat-box3 の移動や移設は故障の原因となります。

ストーブやヒーターなどの発熱器具に近い場所、揮発性可燃物やカーテンなどの燃えやすいものに近い場所には beat-box3 を設置しないでください。火災の原因となるおそれがあります。

高温、多湿の場所や換気が悪くホコリの多い場所には beat-box3 を設置しないでください。発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。

beat-box3 を水などの液体がかかる恐れがある場所では使用しないでください。たとえば、浴槽、洗面台、流し、洗濯機の近くでは使用しないでください。

beat-box3 は、重さ 10kg 以上に耐えられる丈夫で水平な場所に設置してください。beat-box3 の転倒や落下などによりケガの原因となるおそれがあります。

機械を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源コードが傷つき、発熱による火災や感電の原因となるおそれがあります。

■ 利用上の警告や注意

警告

電源のオン／オフの際には、本ユーザーズガイドの「電源のオン／オフの方法」に従い、むやみに強制停止しないでください。ハードディスクの故障や、データの消失が高い確率で発生します。

次のようなときには、本ユーザーズガイドの「電源のオフの方法」に従って電源をオフにしてください。その後、弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用を続けると火災のおそれがあります。

- beat-box3 から発煙したり、beat-box3 の外側が異常に熱くなったとき
- 異常な音やにおいがするとき
- beat-box3 の内部に水が入ったとき

ネジで固定されているパネルやカバーなどは、絶対に開けないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。また、beat-box3 の故障や、データの消失が生じるおそれがあります。

beat-box3 に内蔵しているハードディスクを抜いたり、他のハードディスクと入れ換えたり、上下を入れ換えたりしないでください。ハードディスクの故障や、データの消失が高い確率で発生します。

beat-box3 のイーサネットポート(LAN、Internet)以外のコネクタやスロットは利用できません。利用できないコネクタやスロットに周辺機器を接続したり、利用できないスロットにカードを挿入したりしないでください。beat-box3 の故障、誤動作、データの消失の原因となることがあります。

beat-box3 を改造したり、部品を変更して使用しないでください。火災のおそれがあります。

beat-box3 の上に花瓶、植木鉢、コップなど水の入った容器を置かないでください。水がこぼれた場合、火災や感電のおそれがあります。

機械の上に金属類を置かないでください。すき間から内部に、クリップやホチキスの針のような金属類や燃えやすいものが入り込むと、機械内部がショートし、火災や感電のおそれがあります。

万一、異物(金属片、水、液体)が内部に入った場合は、まず beat-box3 の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。

本サービスを航空機や列車等の交通制御、原子力発電所制御、人命に関わる医療機器制御などの極めて高い信頼性を要求される用途には使用しないでください。

雷鳴が聞こえるときには、落雷による感電防止のためにスプリッタ、モデム、ルーター、電話の配線作業は行わないでください。

電源プラグは絶対に濡れた手で触らないでください。感電のおそれがあります。

電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電のおそれがあります。

電源プラグやコンセントに付着したホコリは、必ず取り除いてください。そのまま使用していると、湿気などにより表面に微小電流が流れ、発熱による火災のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したりしないでください。また重いものを載せたり、引っぱったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、発熱による火災や感電のおそれがあります。

注意

beat-box3 の電源を入れたままで電源プラグを抜き差ししないでください。アークによりプラグが変形し、発熱による火災の原因となるおそれがあります。電源をオフにする方法は、本ガイドの「電源のオン／オフの方法」に従ってください。

beat-box3 の上にものを載せないでください。機械のバランスが崩れて倒れたり、ものが落下してケガの原因となるおそれがあります。

1か月に一度は、次のような点検をしてください。なお、異常がある場合は弊社の beat コンタクトセンターまたは販売店までご連絡ください。

- 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。
- 電源プラグに異常な発熱およびサビ、曲がりなどはありませんか。
- 電源プラグやコンセントに細かいホコリがついていませんか。
- 電源コードにき裂やすり傷などはありませんか。

beat-box3 を水などの液体がかかる恐れがある場所では使用しないでください。たとえば、浴槽、洗面台、流し、洗濯機の近くでは使用しないでください。さらに、プールやサウナの付近など、湿気の多い環境では使用しないでください。

電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災、感電の原因となるおそれがあります。

機械の清掃および保守、故障の処置を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃や保守を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

連休などで長期間、機械をご使用にならないときは、安全のために電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となるおそれがあります。

■ バッテリーの廃棄について

本機に使用している2次電池（充電して繰り返し使用するもの）は、機器回収後、希少資源回収のため、材料としてのリサイクル、熱回収などの再資源化を行っています。

2. 各部の名称とはたらき

【設置についてのお願い】

beat-box3 には必ずペデストール（足）を装着して縦置きにしてください。
beat-box3 の上に物を置かないでください。
※ペデストールを外すと転倒や滑るおそれがあります。
※上に物を置かないでください。上に物を置くと筐体が変形するおそれがあります。また上に物を置くときの衝撃でハードディスクエラーが発生するおそれがあります。

【電源についてのお願い】

beat-box3 は 365 日 24 時間動作させることを前提に設計されていますので、次のような場合を除いて電源をオフにする必要はありません。
(1)移動などのために AC コンセントや本体から電源コードを抜く場合
(2)事前に分かっている停電などがある場合
※beat-box3 には停電対応充電池が内蔵されていますので、停電時には正常に停止し、電源供給が回復すると自動的に起動します。
しかし、毎日、毎週などの頻度で充電池を使用すると劣化がすすみます。毎日、毎週のように頻繁にオフィスなどのブレーカー（電源）を落とされる場合には、10 ページ以降を参考にして事前に beat-box3 の電源をオフにしてください。この場合には電源復帰後も自動的には起動しませんので、手動で電源をオンにしてください。

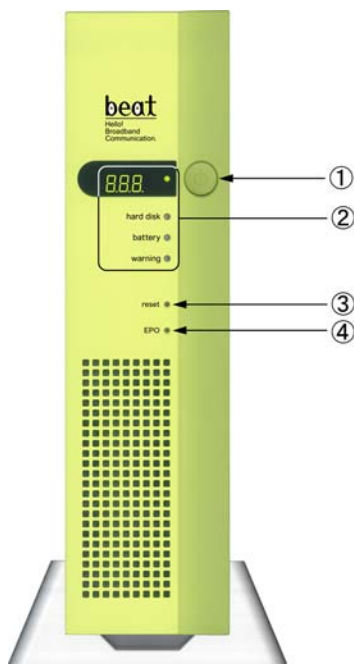
【beat-box の名称について】

beat-box には、beat-box、beat-box2、beat-box3 の 3 種類あります。本ガイドでは、beat-box3 固有の事項に述べたものについては「beat-box3」と表記し、全種類の beat-box に共通の内容については、「beat-box」と表記します。

■ 電源オフ時の beat-box3 の状態

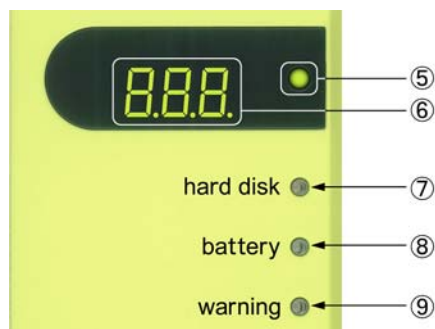
電源オフの状態の場合でも、電源コードを AC コンセントに挿していると、電源ランプが5秒に1回点滅し空冷ファンの一部が動作します。

長時間起動しない場合には、電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

■ beat-box3 前面

① 電源スイッチ
通常は、このスイッチを操作する必要はありません。使用方法は、10 ページ以降の「beat-box3 の電源オフの方法」および「beat-box3 の電源オンの方法」を参照してください。

② LED インジケータ、LED ランプ
詳細は次項の「LED インジケータ / LED ランプ詳細」をご覧ください。

③ リセットスイッチ（reset） ④ EPO スイッチ
通常は、これらのスイッチを操作する必要はありません。使用方法は、10 ページ以降の「beat-box3 の電源オフの方法」および「beat-box3 の電源オンの方法」を参照してください。

■ LED インジケータ / LED ランプ詳細

《注意》
⑤、⑧、⑨のランプが５秒間に５回以上点滅している場合は、ハードウェアに異常が発生しています。コンタクトセンターにご連絡ください。

⑤ 電源ランプ（緑色）
beat-box3 の電源がオンの時に点灯します。また、beat-box3 の電源がオフの場合でも、電源コードを AC コンセントに挿していると5秒に1回点滅します。

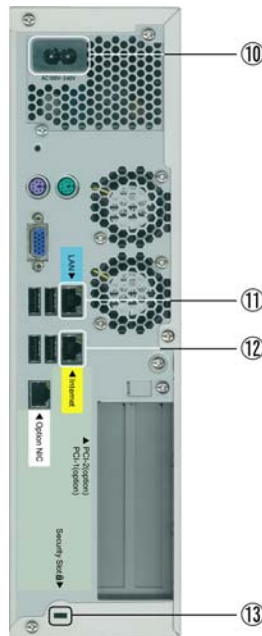
⑥ LED インジケータ
通常は、時計回りにアニメーション表示します。その他の場合はステータスコードが表示されます。ステータスコードの詳細についてはオンラインヘルプを参照ください。

⑦ LED ランプ（緑色）「hard disk」
内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

⑧ LED ランプ（黄色）「battery」
停電対応充電池で駆動している場合に点灯します。

⑨ LED ランプ（橙色）「warning」
動作温度範囲外になった際など、beat-box3 が正常稼動できない場合に点灯もしくは点滅します。

《解説》
複数のステータスコードを同時に表示する必要がある場合、まず“- - -”を表示したあとに、1 つまたは複数のステータスコードを順番に表示するというサイクルを繰り返します。

■ beat-box3 背面

⑩ 電源コード差込口
付属の電源コード以外は差し込まないでください。

⑪ イーサネットポート（LAN ポート）
HUB のポートとネットワークケーブルで接続します。付属の青いネットワークケーブルを使用します。

⑫ イーサネットポート（INTERNET ポート）
ADSL モデムなどとネットワークケーブルで接続します。付属の黄色いネットワークケーブルを使用します。

⑬ セキュリティスロット
beat-box3 の盗難を防ぐために、セキュリティケーブルを装着するためのスロットです。詳細は次項をご覧ください。

《重要》
その他のポートやスロットは利用できません。利用できないポートやスロットに、周辺機器を接続したりカードを挿入したりしないでください。誤動作やデータ消失のおそれがあります。

■ セキュリティスロット

beat-box3 の盗難を防ぐために、セキュリティケーブルを装着するためのスロットです。このセキュリティスロットは、ケンジントン社が提唱している規格に準拠しています。セキュリティケーブルの利用法についてはセキュリティケーブル付属の説明書をご覧ください。セキュリティケーブルを装着すると、beat-box3 の本体カバーを取り外すこともできなくなるため、内蔵ハードディスクの盗難も防ぐことができます。

セキュリティケーブルをご利用の際には、鍵を紛失されないよう十分にご注意ください。

beat-box3 の保守作業を実施する際には本体カバーを取り外す必要があります。事前にセキュリティケーブルを外してください。

■ beat-box3 の電源オフの方法

beat-box3 は 365 日 24 時間動作させることを前提に設計されていますので、次のような場合を除いて電源をオフにする必要はありません。
(1)移動などのために AC コンセントや本体から電源コードを抜く場合
(2)事前に分かっている停電などがある場合

※beat-box3 には停電対応充電池が内蔵されていますので、停電時には正常に停止し、電源供給が回復すると自動的に起動します。しかし、毎日、毎週などの頻度で充電池を使用すると劣化がすすみます。毎日、毎週のように頻繁にオフィスなどのブレーカー（電源）を落とされる場合には、事前に beat-box3 の電源をオフにしてください。この場合には自動的には起動しませんので、前面の電源スイッチを押して起動してください。

《重要》
ここに示す手順に従わずに電源をオフにすると、ハードディスクの故障やデータ消失が発生する可能性が高くなります。

電源オフの方法は beat 設定ページを利用した方法と、beat-box3 本体のボタンを操作する方法があります。また、beat 設定ページを利用すると、自拠点の beat-box3 だけではなく、他拠点の beat-box3 の電源をオフにすることが可能です。本ガイドでは、自拠点の beat-box3 を電源オフする方法を説明します。

電源オフの方法

電源オフの方法には、大きく分けて beat 設定ページから行うもの（操作手順 A）と、電源スイッチの操作により行うもの（操作手順 B）の 2 種類あります。beat-box3 の停止理由を beat コンタクトセンターに通知するために、なるべく前者の方法で電源をオフにしてください。

≪操作手順 A≫（beat 設定ページからの電源オフ）

この操作は beat-box 責任者のみが実行できます。

① ブラウザの URL（アドレス）に「http://beat-box:8080/」を入力し※、Enter キーを押してください。beat 設定ページのホームページが表示されます。

※お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、“http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/”（例：http://192.168.0.1:8080/）を入力してください。

次の beat 設定ページが表示されます。

② ログインしていない場合は、[ログイン]をクリックし beat-box 責任者のメールアドレス(ログイン ID)とパスワードを入力します。

③ beat 設定ページの[利用]をクリックし、次に左側のメニューの中の[beat-box の停止･再起動]をクリックします。次の「beat-box 停止･再起動」画面が開きます。

[理由]欄に beat-box3 を停止させる理由を記入し、[beat-box 停止]ボタンをクリックします。この方法で電源をオフにするときには、beat-box3 を停止させる理由を記入してください。停止の操作者と理由が、すべての beat-box 責任者と beat-noc に通知されます。

[beat-box 停止]ボタンをクリックすると、約 10 秒後にシャットダウンが開始されます。シャットダウン中は LED インジケータに“ooo”が表示されます。約1分でシャットダウンは完了し、シャットダウンが完了すると LED インジケータの表示は消えます。必ず表示が消えたことを確認ください。表示が消えれば電源オフは完了です(ただし、電源オフの状態でも電源コードが AC コンセントに接続されている場合は、電源ランプが5秒に1回点滅し空冷ファンの一部も動作します)。

《重要》
LED インジケータの表示が“ooo”に変化しない場合や、“ooo”に変化してから 2 分以上経過しても LED インジケータが消えないときには、電源オフができていません。電源オフができない場合に限り、「リセットによる電源オフの方法」(12 ページ)に記載された手順で電源オフをしてください。

≪操作手順 B≫(電源スイッチによる電源オフ)

① beat-box3 の電源スイッチを押します。LED インジケータの表示が“OFF”に変わり、操作音が鳴ります。

② シャットダウンが開始されます。シャットダウン中は LED インジケータに“ooo”が表示されます。1 分未満でシャットダウンは完了し、LED インジケータの表示は消えます。必ず表示が消えることを確認してください。表示が消えれば電源オフは完了です(ただし、電源オフの状態でも電源コードが AC コンセントに接続されている場合は、電源ランプが5秒に1回点滅し空冷ファンの一部も動作します)。

《重要》
LED インジケータの表示が“ooo”に変化しない場合や、“ooo”に変化してから 2 分以上経過しても LED インジケータが消えないときには、電源オフが完了していません。この場合に限り、次の「リセットによる電源オフの方法」に記載された手順で電源オフをしてください。

リセットによる電源オフの方法

《重要》
上記の「電源オフの方法」によって電源オフできない場合に限り、この手順を実行してください。

《注意》
リセットスイッチ（reset）を押して再起動させた場合、ファイルのチェックのために起動時間が通常より長くなります。下記の手順②の起動完了（アニメーション表示への移行）までしばらくお待ちください。

≪手順≫

① beat-box3 前面のリセットスイッチ（reset）をボールペンなどの先の細いもので押します（約 1 秒間）。数分ほどで beat-box3 が再起動します。

② LED インジケータが時計回りに回転するアニメーション表示になったことを確認してから、操作手順 A または操作手順 B により電源をオフにしてください。

《重要》
このリセットによる手順で電源がオフできなかった場合は、次の「強制停止による電源オフ」の手順で電源をオフにしてください。

強制停止による電源オフ

《警告》
「電源オフの方法」および「リセットによる電源オフの方法」のいずれの方法でも電源がオフできなかった場合に限り、以下に示す手順を実行してください。強制停止により beat-box3 を停止すると、ハードディスクの故障やデータ消失が発生する可能性が高くなります。

≪手順≫

① beat-box3 前面の EPO スイッチをボールペンなどの先の細いもので押し続けます（約 4 秒間）。

《注意》
強制停止により beat-box3 を停止させた場合、ファイルのチェックのために次回の起動時間が通常より長くなります。起動するまでしばらくお待ちください。

■ beat-box3 の電源オンの方法

≪操作手順≫

① beat-box3 に電源コードが差しこまれていることを確認します。

② beat-box3 の電源がオフになっていることを確認します。LED インジケータの表示が消えて電源ランプが5秒に1回点滅している時は、beat-box3 の電源がオフの状態です。電源がオンの場合には、以下の操作は必要ありません。

③ beat-box3 の電源スイッチを押します。

④ beat-box3 の電源がオンになり、起動を開始します。LED インジケータには、まず"888"が、次に"P"と数字2桁が、さらに"A"と数字2桁が表示されます。システムが正常に起動するとLED インジケータが時計回りに回転するアニメーション表示になります。

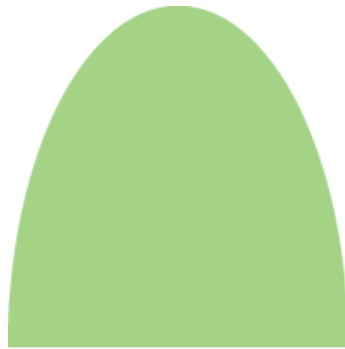
電源コードを一時的に外していたり、停電などで beat-box3 に電源が供給されなかった後ではじめて beat-box3 を起動する場合、電源スイッチを押してから LED インジケータに"888"が表示されるまで数秒程度かかります。

beat-box3 が正しく起動できたことを確認するために、PC のブラウザより beat 設定ページを参照できることを確認してください。

beat-box3 の電源をオフし、直後にオンする場合には、LED の表示が消えてから 10 秒以上待ってから行ってください。

■ 動作温度について

beat-box3 は空調が停止した室内でも可能な限り動作するように設計しています。そのため、空調を停止しても beat-box3 を動作させ続けて構いません。ただし、ハードディスク自体や内部のデータを守るために、温度にしたがって次のように動作を制御します。温度は、beat-box3 内部温度とハードディスクの温度を基準に制御していますので、処理負荷による発熱や、設置場所の環境によって、ある程度のばらつきが生じます。また機能改善のため、設定値を変更することがあります。そのため以下に示す温度は目安とお考えください。

- 動作中に室温が動作保証範囲外(約 40℃以上もしくは約 5℃以下)となった場合には、シャットダウンし、待機状態になります。この場合には warning ランプ(橙色)が点灯します。温度が動作保証範囲内に戻ると自動的に起動します。
- 低温待機状態においてさらに温度が低下した場合(約-5℃以下)、または高温待機状態においてさらに温度が上昇した場合(約 45℃以上)には、安全のために停止します。この場合には、電源オフ時と同じ状態(次ページ参照)になります。温度が動作保証範囲内に戻っても自動的には起動しませんので、手動で電源スイッチを押して再起動してください。
- 電源スイッチをオンにした際に動作保証範囲外である場合(約 40℃以上もしくは約 5℃以下)、warning ランプ(橙色)が点灯し待機状態になります。周囲の温度が動作保証範囲内になると自動的に起動します。

スタートアップ編

3. ガイドなどの内容紹介

beat サービスで提供されるガイド類について説明します。

■ ユーザーズガイド、クイックガイドとオンラインヘルプ

beat サービスで提供するガイドには、製本された本ユーザーズガイドと PDF として提供されるクイックガイド、および beat-box の beat 設定ページから閲覧できるオンラインヘルプがあります。ユーザーズガイドの内容の大半は、オンラインヘルプにも記載されています。ただし、beat 設定ページを見ることができない場合には、本ユーザーズガイドが必要になりますので、本ユーザーズガイドは大切に保管してください。

beat サービスの機能や操作方法は、改良のために予告なく変更されることがあります。その変更は beat-noc（beat サービス専用のネットワークオペレーションセンター）を通じて自動アップデートされます。オンラインヘルプも、その機能や操作方法の変更と同時に、矛盾が生じないように自動アップデートされます。また、同様のガイドであっても、オンラインヘルプには、より詳しい内容が記載されることがあります。

ユーザーズガイドは、beat-box の使用法や注意、beat-box の beat 設定ページの利用までの手順、beat 設定ページを見ることができない場合のトラブル対処法に重点をおいています。beat-box の beat 設定ページが見ることができない場合には、ユーザーズガイドを活用して beat 設定ページを見ることができるようにしてください。

クイックガイドでは、beat サービスやオプションサービス導入時の設定方法を図入りで手順を追って説明しています。クイックガイドは PDF で提供され、次の3種類あります。いずれも、次ページで紹介する net-beat.com からダウンロード可能です。

- beat/basic クイックガイド
- リモートアクセスサービス クイックガイド
- beat モバイルメールサービス クイックガイド

■ 各ガイドの紹介

項目	所在	主な内容
安全上の注意	ユーザーズガイド および オンラインヘルプ	主に beat-box について、安全かつ正常にお使いいただくための注意、指示、禁止事項を記載しています。beat-box は電源のオン／オフと、設置条件が一般の PC とは異なります。必ずこの内容に従ってください。
beat-box の各部の名称とはたらき	ユーザーズガイド および オンラインヘルプ	主に、beat-box の動作状態を示すインジケータパネルの見方と、電源のオン／オフの方法について記載しています。
beat サービスの紹介	ユーザーズガイド および	beat サービスの目的、システム構成、特長を簡単に紹介します。beat サービスをご利用に

	オンラインヘルプ	なると、何のために何ができるのかを理解していただくことを目的としています。オンラインヘルプでは、オプションサービスについても説明しています。
利用ステップ	ユーザーズガイド および オンラインヘルプ	beat サービスをお使いになる手順を示しています。ユーザーズガイドでは、beat-box の beat 設定ページを利用できるまでを詳しく記載し、それ以外は概要のみとしています。詳細はオンラインヘルプを参照してください。
LAN 構築 ガイド	ユーザーズガイド	お客様のオフィス内にある、beat-box、PC、プリンタを接続して LAN を構築するための基本をお伝えするものです。
PC 初期設定 マニュアル	ユーザーズガイド および オンラインヘルプ	beat サービスをご利用になるには、PC に簡単な設定を行う必要があります。
操作 マニュアル	クイックガイド	PC 初期設定のなかで代表的なものを、手順を追って詳細に解説しています。
操作 マニュアル	オンラインヘルプ および クライアントソフトウェアに付随したヘルプファイル	beat サービスおよびオプションサービスの操作マニュアルです。ただし、クライアントソフトウェアの操作マニュアルはクライアントソフトウェアと共に PC にインストールされます。
困ったときの 対処法	ユーザーズガイド および オンラインヘルプ	beat サービスおよびオプションサービスのトラブルや使い方が不明な場合などへの対処方法を示します。ユーザーズガイドでは、beat-box の beat 設定ページを利用できない場合の対処法のみを記載しています。
用語集	オンラインヘルプ	beat サービスに関連する用語について説明します。一般用語と beat サービス固有の用語についても説明します。

■ beat お客様サポートサイト

上記のほかに、「beat お客様サポートサイト」にて beat サービスに関する情報を掲載しています。「beat お客様サポートサイト」のアドレスは次のとおりです。

http://net-beat.com/support/

4. beat サービスの紹介

■ 目的

多くのかたがインターネットを利用するようになりました。電話、ファックス、ダイレクトメール、看板、カタログに代わって、WWW ページ（ホームページ）や電子メールがより多く利用されています。現在では、ビジネスにおいても、インターネットは必須と言えるでしょう。たとえば、お客様向けには、WWW ページによる商品情報や、よくある質問に対する解答を公開することは、新たなお客様の獲得、コスト削減、顧客満足度向上のために重要です。商取引においても電子メールによる情報交換や、WWW ページによる商品情報の収集などが必要でしょう。

また、社内の業務でも見積書や提案資料などの文書作成、会計処理などの計算処理には PC を利用することが多くなりました。PC の価格も安くなってきたので1人に1台 PC を配置することもできるようになりました。PC の台数が増えると、利用するデータの伝送や共有も必要になります。

そのためには、社内の PC をネットワークで結び、さらにそのネットワークをインターネットに接続しなければなりません。インターネットとの接続には ADSL を主流としたブロードバンドが登場して、低コストで行えるようになりましたが、企業における運用では、そのための機材調達、設定作業、社員教育、運用作業などのコストが無視できません。

beat サービスは、企業が社内外でネットワークを活用するための多彩なサービス（機能）と強固なセキュリティを、簡単な操作性とともに提供するサービスです。

ただし、beat サービスにはブロードバンドによるインターネットとの接続と、LAN と呼ばれる社内ネットワークによる PC 間の接続は含まれせん。これは、次のような理由によります。

- ブロードバンドは地域に依存した幾つもの選択肢があり、価格や仕様にばらつきがある。
- LAN はお客様のオフィス環境に依存する。

■ 本章で用いられる用語について

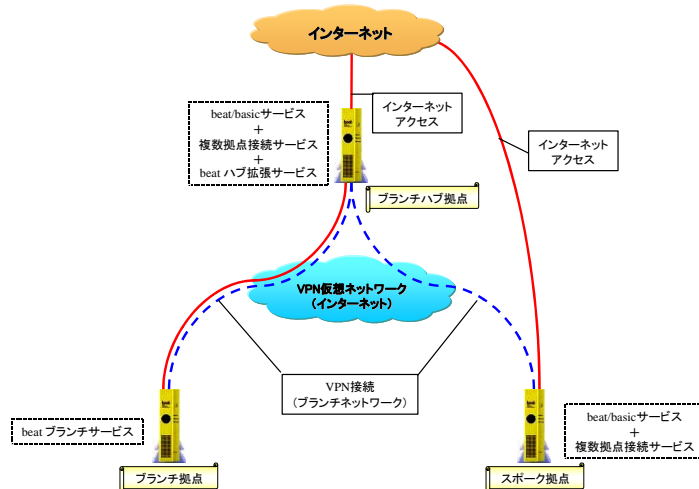
VPN

Virtual Private Network の略で、暗号化通信により既存のネットワーク網に形成された仮想的な LAN ネットワークを指します。beat サービスでは大まかに次の 2 つの VPN 接続サービスがあります。なお、これらの VPN は混在することが可能です。

・各拠点が beat/basic サービスと複数拠点接続サービスを契約することによって形成される VPN（beat/connect）

・1つの拠点が beat/basic サービス、複数拠点接続サービス、beat ハブ拡張サービスを契約し、他の拠点が beat ブランチサービスまたは「beat/basic サービスと複数拠点接続サービス」を契約することによって形成される VPN（ブランチネットワーク）

拠点

beat サービスにおいて、beat-box が置かれている事業所などを表します。また、その拠点の beat-box そのものを指すこともあります。特に、beat/connect においてハブとして機能している拠点を「ハブ拠点」、スポークとして機能している拠点を「スポーク拠点」と呼びます。また、ブランチネットワークにおいてハブとして機能している拠点を「ブランチハブ拠点」と呼び、スポークとして機能している拠点のうちブランチサービスを契約している拠点を「ブランチ拠点」、beat/basic サービスと複数拠点接続サービスを契約している拠点を「スポーク拠点」と呼びます。

■ サービス概要

beat サービスには、主に次のような基本サービス、およびオプションサービスがあります。

beat/basic サービス

beat サービスの基本サービスの1つで、beat サービスの中核をなします。beat サービスの主要なものはこの beat/basic サービスによって提供されます。各拠点では、この beat/basic サービスか beat ブランチサービスのいずれかを基本サービスとして契約する必要があります。

beat 複数拠点接続サービス（beat/connect）

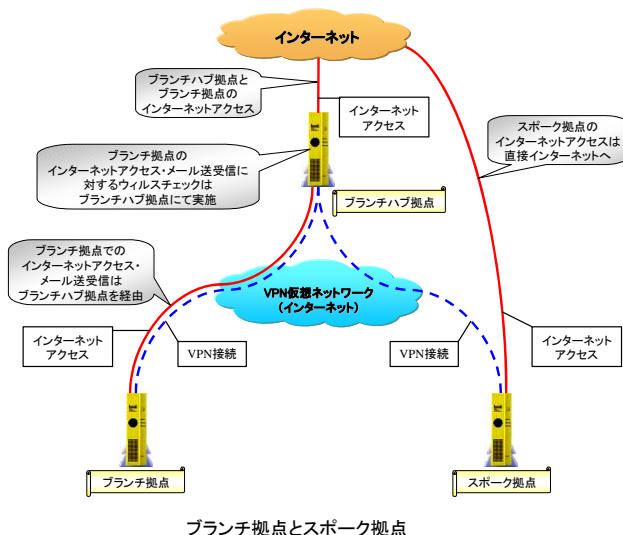
beat/basic サービスのオプションサービスで、他の beat-box と VPN 接続することが可能となります。

beat ハブ拡張サービス

beat/basic および複数拠点接続サービス（beat/connect）に加えて、このサービスをオプション契約することにより、ブランチネットワークにおけるハブ拠点（ブランチハブ拠点）となり、beat ブランチサービスを基本契約とする beat-box と VPN 接続を形成することが可能になります。1つのコミュニティにおいてこのサービスを契約できるのは 1 拠点のみです。

beat ブランチサービス

ブランチ拠点をブランチハブ拠点に VPN 接続するサービスであり、ブランチ拠点にて契約する基本サービスです。ブランチ拠点においては、同時に beat/basic サービスを契約することはできません。
ブランチサービスにおけるブランチ拠点のインターネット通信は原則としてすべてブランチハブ拠点を通じて行われます。また、利用者登録情報や外部メール連係におけるメールボックスは、ブランチハブ拠点の beat-box にあり、ブランチハブ拠点の beat/basic サービス契約に基づいてサービスが提供されます。つまり、ブランチ拠点においては、beat-box は主に VPN ルータとして機能することになります。

ブランチ拠点とスポーク拠点

beat リモートアクセスサービス

beat/basic サービスのオプションサービスの一つで、外出先から beat-box や beat-box 配下の LAN への安全なアクセスが可能になります。通信は暗号化されているため、外部から傍受することはできません。また、独自の認証を行うことにより、許可された PC 以外からアクセスすることはできません。

■ 複数拠点接続サービスとブランチサービスの比較

各拠点が複数拠点接続サービス（beat/connect）を契約することによって形成されるVPN接続（beat/connect）と、ブランチハブ拠点およびブランチ拠点から形成される VPN 接続（ブランチネットワーク）には、いくつかの相違点があります。それらを以下にまとめました。

VPN の種別	beat/connect	ブランチネットワーク	
各種サービスを利用する拠点	ハブ拠点／スポーク拠点	ブランチハブ拠点／スポーク拠点	ブランチ拠点
WWW 閲覧	自拠点の beat-box 経由	自拠点の beat-box 経由	ブランチハブ拠点の beat-box 経由
メールの送受信	自拠点の beat-box 経由	自拠点の beat-box 経由	ブランチハブ拠点の beat-box 経由

ウイルスチェックの処理	自拠点の beat-box	自拠点の beat-box	ブランチハブ拠点の beat-box
利用者やグループウェアのデータベース	自拠点の beat-box	自拠点の beat-box	ブランチハブ拠点の beat-box
beat-box 責任者	各拠点に存在	各拠点に存在	存在しない

■ システム構成

beat サービスは、次の5つの大きな要素から構成されています。

(a) beat-box

お客様のオフィスに設置する beat サービスの専用サーバーです。所有権は富士ゼロックスにあり、故障時には無償で修理・交換いたします。インターネットと LAN の両方に接続し、不正アクセスなどの攻撃を防ぎつつインターネット上のサービスと通信し、LAN 向けに各種ネットサービスを提供します。

(b) beat-noc

beat サービス専用のネットワークオペレーションセンターで、インターネット上に存在します。これは、beat-box のソフトウェア、管理エージェント（自律的管理プログラム）、ウイルスイルス定義ファイル、オンラインヘルプなどの更新を行います。また、beat-box に対する不正アクセスや動作状況を監視し、異常時には beat コンタクトセンターなどと連係して対処します。

(c) beat/idc ホスティングサービス

オプションとしてご提供する、beat サービス専用のインターネットデータセンターです。インターネット上に位置し、お客様専用のメール受信サービスやホームページ公開サービスとして機能します。

(d) beat-client

Windows 専用のクライアントソフトウェアで、beat-box と連動してクライアント PC をサポー

トする機能を提供します。インストールは任意です。

(e) beat コンタクトセンター

beat サービスの不具合の報告や、使い方の問い合わせを電話等で受け付けます。

■ 機能と特長

（a）基本ネットワークサービス

beat サービスの基本ネットワークサービスは、ネットワークを維持するための基本的なサービスです。

(a-1) IP アドレスの割当

IP アドレスとは、ネットワークに接続されている機器（PC など）の住所に相当するものです。ネットワークに接続する機器に正しい方法で IP アドレスを割り当てないと、その機器が通信できないだけでなく、他の機器の通信を妨げることもあります。

beat サービスでは、beat-box に個人用の PC に IP アドレスを割り当てる際に便利な自動割当サービスと、プリンタなどの他の機器から利用される機器に IP アドレスを割り当てるための固定 IP アドレス割当機能を備えています。

(a-2) DNS（ドメインネームサービス）

DNS とは"www.fujixerox.co.jp"といった文字列による名前から IP アドレスに変換するサービスです。たとえば WWW サーフィン（インターネット上のホームページの閲覧）をする際には、文字列でホームページを指定するため、この変換が必要になります。

beat-box は DNS を提供しますので、WWW サーフィンなどの快適性が向上します。

(a-3) ネットワーク管理

ネットワークを使用するには、次のような設置、設定、管理が必要になります。

- ハードウェアやソフトウェアの調達
- 利用目的や利用状況に応じた設定
- ハードディスクやメモリなどの容量の管理
- ソフトウェアのアップデート
- セキュリティ対策の実施
- 利用者に対する利用方法の説明
- トラブル発生時の対応
- 権利（ネットワーク権限）の管理

beat サービスでは、このうちお客様でなければ把握できない「権利の管理」と、お客様の具体的な業務や規模などに依存するネットワーク配線、PC、プリンタ、クライアントソフトウェアといった「ハードウェアやソフトウェアの調達」をのぞいて代行します。

（b） 応用ネットワークサービス

beat サービスの応用ネットワークサービスは、基本ネットワークサービスを元に提供される応用サービスです。これらのサービスは、ブランチ拠点においては、ブランチハブ拠点経由で提供されます。

(b-1) WWW アクセス（ネットサーフィン）

インターネット上にあるさまざまなホームページや映像を見たり、ソフトウェアをダウンロードしたり、さらには商品を注文するといったことが可能です。

(b-2) ホームページの作成

ホームページは商品広告、商品カタログ、商品サポート、求人広告などのさまざまな役割を果たします。beat サービスには、テンプレートに情報を記入・編集するだけで、ホームページを簡単に作成、公開、更新することができる専用のホームページ作成ツール beat-hpmaker が装備されています。

(b-3) メールの送受信

メールアドレスをお持ちのかたにメッセージを送ることができます。電子データであれば、文書や画像などを同時に送ることもできます。一度に多くの人に同じものを送ることもできます。もちろん、受け取ることもできます。

beat/idc をご利用になれば、社外のかたとのメールの交換も可能になります。また、beat/idc のご利用にかかわらず、すでにご利用になっている任意の IDC やホスティングサービスを介したメールの送受信も行えます。

beat/idc をご利用にならない場合、IDC やホスティングサービスにメールボックスをお持ちでない利用者は、現在のところメールをご利用になれません。

(b-4) メーリングリスト

メールは同時に複数のかたに送信することができます。しかし送信のたびに複数のかたを宛先に指定するのは面倒であり、漏れが発生することになります。

メーリングリストとは、メールアドレスをまとめたもので、メーリングリスト自身もメールアドレスを持ちます。メーリングリスト宛にメールを送信することにより、メーリングリストに含まれる各メールアドレスに対してメールが配信されます。

メーリングリストも beat サービスで提供されるサービスの1つです。また、通常のメーリングリストに加えて、お客様のお客様に対して情報配信することに適したものも提供しています。

(b-5) グループ

beat サービスのグループとは、複数の利用者の集まりです。グループに含まれる利用者をメンバーと呼びます。

グループを作れば、グループと同じメンバーのメーリングリストを自動的に作成したり、共有フォルダのアクセス権としてグループを指定したり、簡易グループウェアでメンバーのスケジュールを一覧することが可能になります。メンバーの変更を行えば、メーリングリストやアクセス権を変更する必要はありません。

(b-6) 共有フォルダ

共有フォルダとは、beat-box の中にファイルを格納し、それを利用者が取り出せるようにするためものです。Windows のデスクトップ上にある[ネットワーク コンピュータ]からアクセスすることができます。

(b-7) 簡易グループウェア

企業では、打ち合わせや同行といった協同作業が必要となります。その場合、各人のスケジュールを互いに確認する必要があります。
beat-box にはスケジュール管理機能、会議室やプロジェクタといった施設や設備の予約管理機能、掲示板の3つの機能を持った簡易グループウェアが搭載されています。この簡易グループウェアの利用者やグループは、beat-box の利用者やグループと連動していますので、二重に管理する必要はありません。

(b-8) beat リモートアクセスサービス(オプション)

外出先や自宅の PC から、安全に beat-box にアクセスし、社内と同様に業務を遂行することを可能とします。通信路は暗号化し盗聴を防止しています。許可された PC からのみアクセスすることができますので、接続用ソフトウェアなどを他の PC にコピーしてもアクセスできません。ご利用に際して beat-box に固定 IP アドレスを取得する必要もありません。

(b-9) beat モバイルメールサービス(オプション)

リモートメール(株式会社 fonfun が提供するサービス)を利用して時間や場所を選ばずに、オフィスの届くメールを携帯電話で閲覧・返信できます。メールの内容は携帯電話に残りません。また、beat サービス独自の強固なファイアウォール、ウイルス対策と連係しています。

(b-10) beat/asp サービス for サイボウズ(R) (オプション)

サイボウズ(R) Office 6 を ASP にてご利用いただけるサービスです。基本サービスのスケジュール管理、掲示板、共通アドレス帳などの基本セットに加えて、ワークフロー、報告書、プロジェクトのマネジメントオプションもご利用いただけます。ASP なので、サーバを準備する必要はありません。

(b-11) beat/asp PC 資産管理サービス(オプション)

各 PC のメモリ容量、ディスク容量、IP アドレスなどの収集、セキュリティ対策ソフトの稼働状況確認、ソフトウェアのインストール状況確認などを一元的に行えます。ASP なので、サーバを準備する必要はありません。

(c) セキュリティ対策

beat サービスのセキュリティ対策では、不正アクセス、ウイルス、盗聴といった外部からの脅威に対する安全対策を提供します。ブランチ拠点のメールや WWW アクセスのウイルスチェックは、ブランチハブ拠点経由で提供されます。

(c-1) ファイアウォール

ファイアウォールとは「防火壁」という意味ですが、ネットワークにおいてはインターネットとLANの間に位置し、インターネット側からのLANに対する不正なアクセスを阻止するものです。

通常のファイアウォールは、アクセスは受け付けつつ、不正なアクセスを見分けて阻止します。この方法の場合には、新しい不正アクセスを不正アクセスと見分けることが難しいため、不正アクセスを完全に防ぐことはできません。

beat-box には、外からのアクセスを受け付けないタイプの、原理的に安全なファイアウォールを搭載しています。

(c-2) 未許可 PC の接続防止

beat-box の DHCP を用いて PC に IP アドレスを割り当てる際、未許可の PC には IP アドレスを割り当てません。これにより、勤務者が自宅から持ち込んだ PC や、訪問者が持参した PC が LAN に接続されることを防止します。

(c-3) パスワードポリシー

パスワードに利用できる文字やパスワードの有効期限などを制限することができます。これによりパスワード漏洩による不正利用を防止することができます。

(c-4) 社内メールの安全確保

beat-box 配下の LAN から送信された社内向けメールは、インターネットを経由することなく直接宛先に配信されますので、機密情報や顧客情報などを社内メールで安全に送付することができます。

（注：beat/idc 以外のメールサーバーをご利用の場合、外部メール連係の設定によっては社内向けメールがインターネットを経由します。）

(c-5) メールのウイルスチェック

ウイルスは、PC のソフトウェアやデータの破壊や、データの盗聴といった不正処理を実行し、お客様の業務を停止させる可能性があります。また、社外のユーザー様にウイルスを配布し、業務上の信頼を損なう可能性もあります。

ウイルスの侵入経路になる可能性が最も高いのがメールです。beat-box では受信したメールはもちろんのこと、送信したメールに関してもウイルスチェックを行い、ウイルスによる被害や加害者になることを防止します。（チェックできないウイルスもあります。）

(c-6) WWW アクセスなどのウイルスチェック

WWW アクセスや FTP によってアクセスした WEB ページやダウンロードしたアプリケーションもウイルスの侵入経路となる可能性があります。

beat-box は、beat-box 配下の LAN からの WWW アクセスやダウンロードしたファイルに対してもウイルスチェックを実行します。（チェックできないファイルやウイルスもあります。）

(c-7) スパイウェア防止

アンチウイルスエンジンはウイルスの検知と同様に、メールの送受信時や Web アクセス（HTTP、FTP ファイルのダウンロード）時に悪意のあるスパイウェアを自動検出し駆除します。悪意のあるスパイウェアとは『キーロガー、ダイヤラー、バックドア、ハイジャッカー、Dos

攻撃ツール、ハッカーツールなどの利用者や管理者の意図に反してインストールされ、利用者の個人情報やアクセス履歴などの情報を収集するプログラムなど』です。ポップアップ広告を表示するアドウェアやクッキーは、ユーザーによっては必要と思われる場合があるため、beat-box のスパイウェア検出の対象外です。

(c-8) 迷惑メール対策

迷惑メールを自動判定し、迷惑メールの件名に "[spam]" などの文字列を追加します。メールクライアント(メール送受信ソフトウェア)にて、迷惑メールを振り分けるなどの対応を行うことで、迷惑メールによる業務を効率低下を防止することができます。

(c-9) beat PC クライアントアンチウイルスサービス(オプション)

メール、WWW アクセスなどの経路においてウイルスチェックを行っても、社外のユーザー様から送られてきたフロッピーや CD-ROM を経由してウイルスが侵入することもあります。それを防ぐためには、PC のウイルスチェックを行うことが有効です。PC でウイルスチェックを行うソフトウェアを、アンチウイルスソフトと呼びます。

お客様がお使いの PC の台数はさまざまであるため、beat サービスには PC のウイルスチェックソフトは含まれていません。オプションとして、月額固定料金制で Windows 用のアンチウイルスソフトを提供します。PC の台数分のライセンス契約をお勧めします。

(c-10) beat コンテンツフィルタサービス(オプション)

有害な WWW サイトや業務上必要のない WWW サイトへのアクセスを制限することで社員の生産性向上を支援するとともに、情報漏洩を防止する、WWW フィルタリング機能を提供します。セックス、ヌード、出会い、Web メールなどの計39カテゴリから、閲覧させたくない WWW サイトのジャンルを選んで設定します。beat-box 配下のクライアントが、制限したカテゴリの WWW サイトにアクセスするとブロック画面が表示され閲覧できません。

(c-11) P2P ソフトなどによる通信の遮断

社内ネットワークに繋がる PC で Winny などの P2P ファイル共有ソフトや VPN ソフトを利用した場合、beat-box が対象となるソフトから発生するパケットを自動で検知し破棄することで、Winny などの通信を遮断します。社内ネットワークで Winny を利用しようとしても、Winny などによる P2P ファイル共有ネットワークを経由した社内ネットワークへのウイルス侵入や、社内ネットワークに存在する機密情報が流出する危険性を軽減することが可能になります。

(c-12) beat セキュリティキーサービス(オプション)

PC のハードディスク内のファイルの暗号化と、PC のロック機能を提供します。専用のセキュリティキーを USB スロットに差し込むことで、PC のロックを解除し、暗号化されたファイルへアクセスすることができるようになります。また、設定によっては、beat-box の LAN 外での利用を禁止することもできます。

(c-13) パケットフィルタリング

たとえば、特定の PC もしくは特定のネットワークにある PC でメッセンジャーを利用できなくする、といった詳細な通信の制御を行えます。ただし、設定には専門的な知識が必要となります。

（d）安定化対策

beat サービスでは、サービスを安定して提供するために、数々の安定化対策を施しています。

(d-1) ソフトウェア自動アップデート

ソフトウェアの開発には最善を尽くしていますが、予期せぬ不具合やバグが発生する場合があります。それらを修正したり、機能改良をするためにはソフトウェアをアップデートする必要があります。

beat-box 内のソフトウェアは OS（基本ソフトウェア）も含めて、必要に応じて自動的にアップデートされます。お客様の操作は必要ありません。

beat サービスではエージェントと呼ばれる自律的なソフトウェアがネットワーク管理を実施していますが、これも自動的にアップデートされます。

(d-2) 自動監視

beat-noc は常時 beat-box と通信を行いその状態を監視しています。beat-box のソフトウェア、ウイルス定義ファイル、オンラインヘルプなどの更新も自動的に行われます。

(d-3) beat/idc によるホームページ公開（オプション）

お客様のホームページは、beat/idc もしくはお客様が直接契約されている IDC で公開されます。この方式によって、beat-box とインターネットを結ぶ回線が不通になってもホームページの公開は維持されます。

また、ホームページをお客様のオフィスにあるサーバーで公開した場合と異なり、お客様が利用している回線の上り速度の影響で外部から快適にアクセスできなくなることはありません。

(d-4) beat/idc によるメール送受信（オプション）

お客様宛のメールは、beat/idc もしくはお客様が直接契約されている IDC で受信されます。この方式によって、beat-box とインターネットを結ぶ回線がダウンしてもお客様宛のメールは受信されます。もちろん、回線が復活するまではお客様がメールを読むことはできません。お客様のオフィスにあるサーバーで受信した場合と異なり、お客様が利用している回線がダウンしても、エラーメールが送信者に戻りません。

(d-5) NOC の多重化

beat サービスでは、ネットワーク管理センター（beat-noc: beat Network Operation Center)が beat-box のリモート管理、ソフトウェアアップデートなどを制御します。この beat-noc は多重化されており、故障やメンテナンスのために停止しても制御は継続することができます。

(d-6) RAID1 によるハードディスクの二重化

ハードディスクは不具合の原因ともなりますが、もちろん必要不可欠であるため、取り除くことはできません。

そこで、beat-box では、ハードディスクを2台搭載し、ミラーリングを行っています。ミラーリングとはハードウェアにより同時に2つのハードディスクに対して書き込むことにより、一方

が故障してもデータは失われず、動作を継続可能とするものです。

いずれかのハードディスクのディスクの不具合がすると beat-noc 経由で富士ゼロックスに通知され、ハードディスク交換が手配されます。

(d-7) 停電対応充電池

停電が発生すると、一般のコンピュータは停止し、その際にハードディスクに書き込み中であると故障の起こる可能性が極めて高くなります。

beat-box には、停電が発生しても正常な停止処理を実行した後に電源がオフになるように、充電池を搭載しています。

(d-8) PC 上のファイルの自動バックアップ

お客様の PC、特にハードディスクが故障すると、中に保存されているデータが失われることがあります。企業におけるデータ損失は重大な損害につながります。そのためには PC 上で作成したデータを速やかにバックアップする必要があります。

beat サービスでは、PC サポートソフトウェア（beat-client）を用意し、その一部としてファイルの自動バックアップ機能を用意しています。これを利用すれば、beat-box の共有フォルダや、同じマシンの異なるハードディスクへ、作成されたファイルをリアルタイムにバックアップすることができます。

beat-box などのに共有フォルダにファイルをバックアップすることにより、そのファイルを扱う担当者が出社できない場合でも、他の方が業務を継続することができるという効果もあります。

(d-9) 時刻合わせ

PC の時刻が狂うと、異なる PC で更新されたファイルのどちらが最新であるかの判断に誤りが生じることがあります。

beat サービスの beat-client には PC の時刻合わせ機能も装備されています。これにより、PC の時刻は、インターネット上の基準時刻（ntp サービスの時刻）に基づいて同一に保たれます。ただし、Windows Vista では beat-client の時刻あわせ機能は利用できません。OS 標準の時刻あわせ機能をご利用ください。

(d-10) beat 回線二重化設定サービス（オプション）

インターネット接続回線を追加し、回線を二重化することができます。主回線に障害が発生したときには自動的に副回線に切り替わります。主回線が復旧した場合には、自動的に戻すことも、手動で戻すこともできます。

(d-11) 共有フォルダバックアップ

beat-box の共有フォルダ内のファイルなどを NAS(ネットワーク接続型外付けハードディスク)などに定期的にバックアップする機能です。万一災害や盗難によって beat-box 自体が失われた場合でも、ファイルを復旧させることができます。NAS などはお客様にてご用意いただく必要があります。

（e） 簡単な運用と利用

beat サービスでは簡単な運用と、簡単な利用を可能とするために、次のサービスが標準で提供されます。

(e-1) ボックス故障時の修理

お客様の正常な使用の範囲で beat-box が故障した場合には、富士ゼロックスが無償で修理もしくは交換を行います。

(e-2) beat コンタクトセンターによるサポート

サービスの不具合や、使用法の不明点についてのお問い合わせはフリーダイヤルにて受け付けています。コンタクトセンターの問い合わせ電話番号などは、このユーザーズガイドの裏表紙に記載されています。

(e-3) 複雑な設定作業の自動化

ネットワークの各サービスを利用する際には、さまざまな設定が必要で、そのためにはネットワークの知識が要求されます。

beat サービスでは、ネットワークの知識が必要な設定作業のほとんどは自動化されています。また、手動で行う作業手順については、このガイドで詳しく説明します。

(e-4) WWW による簡単な設定

利用者やグループなどの登録や変更などの設定はお客様独自のものであるため、お客様自身で行っていただきます。それらの設定はすべて beat-box の beat 設定ページで簡単に行えるようになっています。

(e-5) 各種履歴表示

メール送信、メール受信、DHCP による処理、WWW アクセス、共有フォルダの利用、リモートアクセス（オプション）の利用などの履歴を記録し、また履歴を参照することができます。

(e-6) 電子変更注文

オプションサービスの追加などを beat-box の beat 設定ページより注文することができます。

5. 利用ステップ

beat-box の設置後に、beat サービスを利用する手順は次のようになります。ここでは、ブロードバンドが開通していることを前提としています。

（A）が終了したのちは、beat 設定ページが各種設定に必要となります。詳細については、beat 設定ページの「ヘルプ」の「利用ステップ」を参照してください。

以下に、利用ステップをご説明しますが、本ガイドでは（B）以降は概略のみを示しています。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。また、（C）以降については、必ずしも本ガイドの順番に設定を行う必要はありません。必要に応じて、設定を行ってください。

■ （A）PC の接続など

PC を beat-box3 に接続します。次の手順で行います。プリンタなどの共有機器の接続は（C）を参照してください。

① beat-box 責任者のメールアドレスとパスワードの確認
beat-box 責任者のメールアドレスは契約時にお客様から指定されたものになります。お忘れの場合には、初期設置時に販売者の指定する技術者にお尋ねください。

② LAN 敷設
beat サービスには LAN の敷設は含まれていません。必要に応じて LAN を敷設して beat-box3 と各クライアント PC やプリンタなどを接続してください。できれば、beat-box3 設置以前に敷設を済ませることをお勧めします。LAN の敷設に関しては、本ガイドの「LAN 構築ガイド」を参照してください。

③ beat-box3 の初期設置
販売者の指定する技術者が初期設置にお伺いします。初期設置には、ブロードバンド回線の開通が必要です。また、beat/isp をご利用でない場合にはブロードバンド回線の種類に依存して ISP 接続パスワード（認証パスワード、ネットワークパスワード、ログインパスワードなどともよばれます）やアカウントが必要です。

④ PC の設定
beat サービスをご利用になるには PC に簡単な設定を行う必要があります。設定の詳細は、本ガイドの「PC 初期設定マニュアル」をご覧ください。

《beat 設定ページへの接続法》

これ以降のステップでは、beat 設定ページ接続が頻繁に必要となります。
beat 設定ページのご利用は、次の手順で行ってください。

① お使いの PC の WWW ブラウザを起動してください。

② ブラウザの URL（アドレス）に“http://beat-box:8080/”を入力し※、Enter キーを押してください。beat 設定ページのホームページが表示されます。
※お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、“http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/”（例：http://192.168.0.1:8080/）を入力してください。
③ beat 設定ページのホームページが表示されない場合には、本ガイドの「beat-box と接続できない場合の対処」を参照してください。
④ beat 設定ページで、右上のメニューのうち使用する項目をクリックしてください。
⑤ 左側のメニューから必要な項目をクリックしてください。
⑥ 利用者を確認しなければ利用できない機能を指定した場合には、ログインページが開かれますので、メールアドレスもしくは Windows ユーザー名と、パスワードを入力してください。

■ （B）利用者や beat-box 責任者の登録など

利用者や beat-box 責任者の登録が必要です。このステップは必須です。

① beat-box 責任者のパスワード変更（注：ブランチ拠点では必要ありません）
beat-box 責任者の初期パスワードは「yKyAyfwK」です。このままですと、セキュリティ上の問題がありますので、パスワードは必ず変更してください。パスワードの変更は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]⇒[自身の設定]⇒[パスワード変更]で行います。利用者の確認後、「パスワード変更」ページが表示されますので、新しいパスワードを2箇所に入力し[変更]ボタンをクリックしてください。

② 利用者の登録
beat サービスを利用するユーザーを登録してください。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]⇒[利用者管理]⇒[追加]で行います。その後、そこで指定したメールアドレスと自動生成されたパスワードを利用者に伝えてください。その際、氏名とふりがなの入力は省略しても構いません。

Excel シートを利用した利用者一括登録も可能です。詳細はオンラインヘルプを参照してください。

アカウント登録代行役務サービスを利用になった場合には、利用者の登録は済んでいますので、個々の利用者ごとに「利用者の登録」を実施する必要はありません。この場合の利用者のパスワードは固定で「741963」となります。

③ 利用者のパスワードの変更
各利用者は beat-box 責任者から伝えられたパスワードを変更してください。手順は①と同じです。

④ 利用者の氏名などの変更
各利用者はご自分の氏名とふりがなを入力してください。氏名は beat サービスで各利用者を示すときに表示されます。ふりがなは複数の利用者を一覧するときの順序を決めるために利用されます。また、Windows ユーザー名も入力してください。これは共有フォルダにアクセスするときに利用されます。お使いの Windows における、ご自分のユーザー名にしてください。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]⇒[自身の設定]⇒[利用者情報変更]で行います。

⑤ beat-box 責任者の追加

beat-box 責任者を追加してください。beat-box 責任者が1人しかいないと、その人が出社できない場合やパスワードを忘れたときに誰も beat サービスを運用できなくなります。設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]⇒[beat-box 責任者管理]⇒[変更]で行います。

■ （C）共有機器の接続

共有機器を利用する際には、IP アドレスを固定割り当てにする必要があります。

設定は、beat 設定ページにアクセスし、[設定]⇒[固定 IP アドレス確保]⇒[割当]で行います。

■ （D）電子メール

beat/idc をご利用の場合はメールクライアント設定を行う必要があります。beat/idc 以外のメールを利用の場合は外部メール連係追加とメールクライアント設定を行う必要があります。

外部メール連係追加

これは IDC（ホスティングサービス）に届くメールを beat-box に取り込むための設定です。

beat/idc に届くメールに関しては外部メール連係は不要です。beat/idc 以外のメールをご利用になる場合には、メールアドレスごとに外部メール連係追加を行う必要があります。

具体的には、（a）利用者自身が行う方法と、（b）beat-box 責任者が利用者に代わって行う方法がありますが、基本的な操作は同じです。

（a）の場合には、beat-box の beat 設定ページにおいて、[設定]⇒[自身の設定]⇒[外部メール連係追加]で設定を行います。

（b）の場合には、beat-box の beat 設定ページにおいて、[設定]⇒[利用者管理]⇒[外部メール連係管理]で設定を行います。

《解説》

外部メール連係とは、beat-box よりもインターネット側にあるメールサービスを利用して、beat-box 配下の LAN からメールの送受信を行う機能です。メールのウイルスは極めて危険であるために、beat サービスではメールの送受信の際には必ずウイルスチェックを行うようになっています。そのため、利用するメールサービスを beat-box に登録して、beat-box 経由でメールの送受信を行うよう設定する必要があります。

beat-box よりもインターネット側にあるメールサービスには、（a）お客様企業がご利用の法人向け IDC（ホスティングサービス）、（b）各利用者が個人的にご使用のメールサービスでオフィスからも利用したいもの、（c）お客様企業に設置してあるメールサーバー、などがあります。

beat-box にはメールボックスと呼ばれる受信したメールを保存しておく入れ物があります。1つのメールアドレスに対して、1つのメールボックスを作成しなければなりません。そのため、

beat-box 配下の LAN で利用したいメールアドレスごとに外部メール連係を追加する必要があります。一人の利用者が複数の外部メール連係を行うこともできます。

外部メール連係を設定すると、beat-box は指定された IDC などからメールを受信し、beat-box のメールボックスに蓄えます。そして各 PC ユーザーは、メールクライアントを使用して beat-box のメールボックスからメールを受信することになります。メールクライアントの設定については「メールクライアント設定」を参照してください。

beat/idc と外部メール連係は併用できます。beat/idc をご利用になっていても、他の IDC などを経由したメールの送受信が必要な場合には外部メール連係の登録を行ってください。

beat/idc をご利用にならない場合、IDC やホスティングサービスにメールボックスをお持ちでない利用者は、メールをご利用になれません。

メールクライアント設定

メールクライアント（Outlook Express、などのメール送受信ソフトウェア）で beat-box を経由したメールの送受信を行うためには、メールクライアントの設定を変更する必要があります。

beat/idc をご利用の場合でも、メールクライアントの設定を行う必要があります。

メールクライアントソフトウェアの設定方法については、beat 設定ページのオンラインヘルプや同梱のクイックガイドを参考にしてください。

[メールクライアント設定]で一覧されるすべてのメールアドレスのそれぞれに対して、この設定を行い、メールクライアントからメールの受信を行ってください。メールの受信を行わないと、beat-box のメール用の領域が一杯になってしまうことがありますので、できれば１日に１度は受信するようにしてください。

■ （E）WWW アクセス

WWW アクセスを行うためには、ブラウザにプロキシサーバーを設定する必要はありません。また、設定してはいけません。

ブラウザに URL（アドレス）を指定するなどして WWW ページを表示させてください。

■ （F）共有フォルダ

共有フォルダは、beat-box 内のファイル保管場所です。複数の利用者間で共有したいファイルを格納することができます。体系的に整理され、必要に応じて利用するマニュアルなどのファイルや、伝票などの大量で頻繁に追加されるファイルを共有フォルダに格納すると便利です。また、サイズが 10Mbyte 以上で、メールに添付するには大きすぎるファイルをやり取りするために使用することもできます。

共有フォルダは、複数作成することができます。それぞれの共有フォルダごとに、格納や削除が可能な利用者と、参照のみが可能な利用者を設定することができます。格納や削除ができ

る権利を変更権、参照ができる権利を参照権と呼びます。変更権と参照権を合わせてアクセス権と呼ぶこともあります。アクセス権を「任意の人」に設定した場合には、すべての利用者が格納も参照もできることになります。

共有フォルダを利用するには、Windows のデスクトップにあるネットワークコンピュータの[ネットワーク全体]⇒[Workgroup]⇒[beat-box]を開いてください。設定した共有フォルダが一覧されます。

共有フォルダの設定は、beat-boxのbeat設定ページにアクセスし、[設定]⇒[共有フォルダ管理]で行ってください。

■ (G)メーリングリスト

メーリングリストとは、メールアドレスの集まりです。メーリングリスト自体もメールアドレスを持っており、メーリングリスト宛にメールを送ると、メーリングリストに含まれる個々のメールアドレスに送られます。

メーリングリストには、社外のユーザーのメールアドレスも含めることができます。たとえば社外の人も含めた特定のテーマについて情報交換を行う場合や、許可を得たお客様に対して情報提供を行う場合などに使用すると便利です。beat サービスの利用者だけをメンバーとする場合には、次に説明する「グループ」を利用することをお勧めします。

メーリングリストには、次の2種類があります。

(a)配信専用: お客様などの社外のかたへの情報配信を行うことを目的としています。
(b)送受信可能: 社外のかたを含んだ双方向の情報交換を目的としています。

(b)は beat/idc をご利用のお客様にのみ提供されます。

メーリングリストの作成は、beat-box の beat 設定ページの、[設定]⇒[メーリングリスト管理]⇒[作成]から行います。

■ (H)グループ

グループとは、利用者の集まりです。課や係、または一時的なタスクフォース(ある特定の任務を遂行する実行チーム)などをグループとすることができます。

グループを用いると、共有フォルダのアクセス権にグループを設定して、そのグループのメンバー全員に一度にアクセス権を与えることができます。また、グループのメンバーにメールを配信するメーリングリストを利用できるようになります。さらに、簡易グループウェアで、グループのメンバーのスケジュールを一覧することができます。

グループに利用者を追加すれば、そのグループに与えられた共有フォルダのアクセス権が自動的にその利用者に与えられたり、グループに対応したメーリングリスト宛のメールも配信されるなど、利用者の管理が簡単になります。グループの作成は、beat-box の beat 設定ページにアクセスし、「設定」⇒「グループ管理」⇒「作成」から行います。

■ (I)ホームページ公開

ホームページを公開する場合には、ホームページを構成するファイル本体と、ホームページを公開する場所が必要になります。

beat サービスには Windows 用の法人向け簡易ホームページ作成ツール beat-hpmaker が同梱されています。これを使用することにより、レイアウトの自由度は少ないのですが、テンプレートに従って文章や画像を指定することで簡単にホームページを作成し、かつ修正することができます。beat-hpmaker は、beat-box の beat 設定ページの[利用]⇒[ダウンロード]からダウンロードし、インストールしてください。マイクロソフト社の Internet Explorer 6.0 が必要となります。

ホームページは beat-hpmaker 以外のツールを使用して作成することもできます。

beat/idc をご利用の場合には、beat/idc においてホームページを公開することができます。beat-hpmaker でホームページを作成した場合には、beat-hpmaker における一回の操作でホームページを公開することができます。

beat-hpmaker を利用しない場合には、共有フォルダ“homepage”にホームページを格納し、beat-box の beat 設定ページの[利用]⇒[ホームページアップロード]からアップロードを行うことが可能です。

beat/idc をご利用でない場合には、ホームページの公開場所は提供されません。他の IDC(ホスティングサービス)などをご利用ください。

■ (J)簡易グループウェア

beat サービスでは、スケジュール管理、施設予約、掲示板の機能を持った簡易グループウェアが提供されます。スケジュール管理では、複数人が参加するスケジュールや、定期的に実施されるスケジュールの一括登録などが行えます。

beat サービスの簡易グループウェアでは、利用者やグループは、beat サービスの通常の利用者やグループをそのまま使用できますので、簡易グループウェア用に利用者やグループを再度登録する必要はありません。

たとえば、スケジュール管理は、beat-box の beat 設定ページの[グループウェア]⇒[スケジュール管理]で利用できます。

■ （K）PC サポートソフトウェア

WindowsPC 用に、いくつかの便利な機能を提供するソフトウェア beat-client を用意しています。beat-client には、ファイルの自動バックアップ、時刻合わせ、beat サービスからのメッセージ受付などの機能があります。

beat-client は、beat-box の beat 設定ページの［利用］⇒［ダウンロード］でダウンロードできます。

■ （L）レポーティング

beat サービスの利用者や beat-box 責任者などが知るべき事項は beat サービスからお知らせしますので、beat-box 責任者自らが利用状況などを把握する必要性はありません。しかし、beat-box 責任者が把握したいと考える目的やタイミングに対して、beat サービスからのお知らせだけでは十分でない場合もあります。そのため、beat-box 責任者は、beat サービスの利用状況を随時参照することができるようになっています。

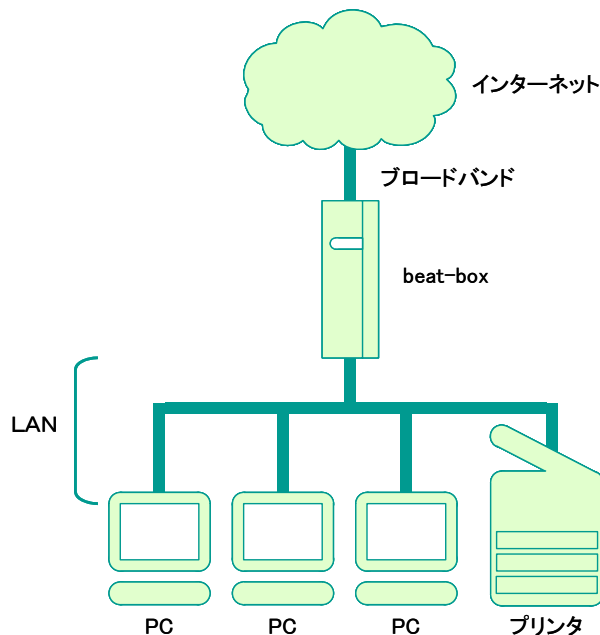
レポート参照は、beat-box の beat 設定ページにおいて［利用］⇒［レポート参照］から行います。

6. LAN 構築ガイド

beat-box を利用するためには、LAN を構築することが必要です。このガイドでは LAN の新規構築についての方法を説明します。

■ LAN とは

社内ネットワークは一般に LAN(Local Area Network)と呼ばれています。LAN とは、お客様のオフィス内にある PC、プリンタ、beat-box などのネットワーク機器を接続し、データをやりとりするものです。

LAN は社内のネットワークですので、その中では社内の機密情報が扱われます。そのため、インターネットからの不正な攻撃、機密情報の漏洩を防止し、社内システムが破壊されないようにする必要があります。具体的には、インターネットとの接続を一ヶ所に絞り、そこにインターネット側からのアクセスを制限するファイアウォールという機構を配置します。beat-box にはファイアウォールの機能が内蔵されています。

■ 有線 LAN と無線 LAN

LAN にはネットワークケーブルを敷設する有線 LAN と、無線を利用する無線 LAN とがあります。従来はほとんどが有線 LAN でしたが、現在では無線 LAN が低価格化にともなって普及しつつあります。これらの差異を下にまとめました。それぞれの特徴に従って選択してください。デスクトップ型 PC やプリンタなどは有線 LAN で接続し、ノート型 PC には無線 LAN で接続するといった混在も可能です。

	有線	無線
コスト	安い	高い
敷設作業	面倒	簡単
レイアウト変更時の作業	必要	不要
設定	不要	必要
通信速度	100Mbps または 1Gbps	54Mbps 以下 （距離や方式に依存）
セキュリティ	高い	設定に依存

有線の場合、異なるフロア間のネットワークの敷設は、専門の業者に依頼することをお勧めします。無線の場合、異なるフロアの場合には電波が届きにくくなるため、一般的には困難です。

無線 LAN を用いる場合でも、beat-box やプリンタといった共有機器は有線 LAN で接続されるのが一般的です。あとはすべて無線 LAN としても良いですし、デスクトップ型 PC は有線 LAN で接続し、ノート型 PC だけを無線 LAN としても構いません。接続台数が多い場合には、無線 LAN で 10～30 台程度を接続し、残りは有線 LAN とすることをお勧めします。無線 LAN において複数の周波数チャネルを使用すると、より多くの PC を接続できるようになります。

■ 有線 LAN の構築

有線 LAN 構築に用いる機器類

有線 LAN 構築には、次の機器類が必要となります。

(a) ネットワークケーブル

カテゴリ5もしくは 100BASE-T 用のケーブルを選んでください。ケーブルの両端には RJ-45 と呼ばれるコネクタが付いています。RJ-45 は電話用の RJ-11 と似ていますが互換性はありません。長さもいろいろあり、最近は薄くて平らでカーペットの下などの配線に向いたものも販売されています。

カテゴリ5のケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。これらの使い分けについては後述します。

ケーブルの敷設に際しては、強く折り曲げたり、引っ張ったりすると、損傷したりノイズを拾いやすくなったりします。また、通路を横切らせる場合には、つまづくと怪我やケーブルの損傷の原因になりますので、確実に固定したり段差をなくしたりするなどの配慮が必要です。

(b) ネットワークアダプタ

ネットワークインタフェースカード（NIC）、LAN カード、LAN アダプタ、LAN ボードなどと呼ばれることもあります。

ネットワークアダプタにはネットワークケーブルを接続するための端子（ジャック、ポートなどと呼ばれます）が備わっています。

最近の PC はネットワークアダプタが内蔵されているものが多く、その場合には新たに用意する必要はありません。

内蔵されていない場合には、新たに購入し、インストール（組み付け）する必要があります。次のようないろいろなタイプがあります。なお、ネットワークアダプタには 100Mbps に対応したものと、1Gbps に対応したものがあります。

i) PCI スロットタイプ
デスクトップ型 PC の場合にはこれが最も一般的です。価格も安いですし、古いタイプの PC でも使用できます。ただし、PCI スロットが1つは空いている必要があります。

ii) USB 接続タイプ
デスクトップ型 PC でもノート型 PC でも使えます。ただし、価格は高めで、USB 端子が付いていない PC の場合には使用できません。また、ノート型 PC の場合には、USB 端子が1つしかない場合があり、そこにネットワークアダプタを接続するとマウスなどの他の機器との併用が難しくなります。

iii) PCMCIA カードまたはコンパクトフラッシュカードタイプ
主にノート型 PC で、それぞれのカードのスロットがある場合には利用することができます。ノート型 PC の場合には、PCMCIA カードタイプが一般的です。この場合には、壊れにくいカプラレスまたはカプラー体型を強くお勧めします。

(c) ハブ

ハブとは、1つのネットワークケーブルを複数に分岐させるネットワークのテーブルタップのようなものです。beat-box にはネットワークケーブルを1本しか接続できませんが、このハブを利用すれば、より多くの機器に接続できるようになります。

ハブには5～32個のネットワークケーブルを接続できるジャック（一般にポートと呼びます）があります。テーブルタップと違い、ポート間には方向性はなく、どのポートに接続されたネットワークケーブル間でも通信できます。

現在はスイッチングハブが主流です。このタイプのものを選択してください。

ハブにも 100Mbps 対応のものと、1Gbps に対応したものがあります。お客様の用途に応じて選択してください。
ハブには電源が必要なので、設置場所に電源コンセントが必要になります。

有線 LAN 構築

《有線 LAN 構築手順》

有線 LAN は次のような手順で構築します。

① 接続される機器の確認

ネットワーク接続に必要な機器の台数や、それぞれの位置を確認します。

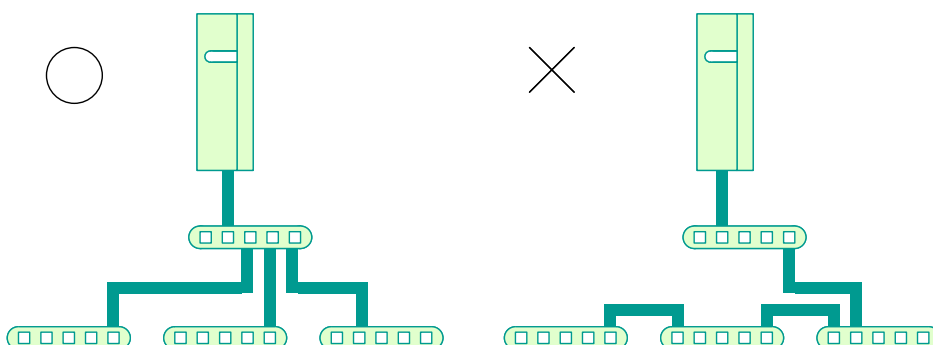
次に、各機器がネットワーク接続機能を持っていることを確認します。接続機能がなければ必要なネットワークアダプタのタイプを確認します。

② ハブの配置の決定

接続する機器を、機器の場所を考慮していくつかのグループに分けて、各グループにハブを設置します。

通常、ハブから各機器の距離は通信速度には影響しませんが、ネットワークケーブルが通路を跨いだりしますと、見た目が悪いだけでなく、怪我の原因にもなりますので、ハブと各機器の距離はなるべく短くするようにします。たとえば机の「島」ごとにハブを配置します。

③ ハブの階層構造の決定

接続する機器が少ない場合には、1つのハブで beat-box、PC、プリンタのすべてを接続することができます。1つのハブで接続することができない場合には、ハブを複数利用することになります。その場合には、次の図の左側に示すように、beat-box に直接接続されるハブと他のハブを直接接続するようにします。次の図の右側に示すように、次々に（直列に）接続すると通信ができなくなることがあります。

プリンタなどの共有機器は、beat-box に直接接続されているハブに接続することをお勧めしますが、ネットワークケーブルの敷設が難しい場合には、他のハブに接続しても構いません。

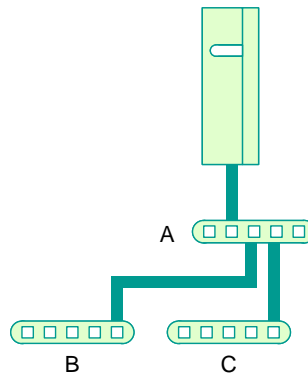
④ ネットワーク機器の購入

必要なネットワークケーブル、ネットワークアダプタ、ハブを購入します。beat-box に添付されているネットワークケーブルはカテゴリ5の長さ5mのストレートケーブルです。

⑤ ネットワークアダプタのインストール

接続される機器のうち、ネットワーク接続機能がないものに対してネットワークアダプタをインストールします。ネットワークアダプタのインストール方法については、ネットワークアダプタのマニュアルを参照してください。

⑥ ネットワークケーブルでの接続

beat-box、PC、プリンタ、ハブの間をネットワークケーブルで接続します。ハブとハブの間を接続する場合を除いてストレートケーブルで接続します。ハブとハブの間に関しては、クロスケーブルを利用します。ただし、ハブにスイッチがあり、特定のポートをアップリンク（もしくはカスケード）に切り替えられる場合には、ストレートケーブルでそこに接続することもできます。特定のポートをアップリンクに切り替えるのは、子供側のハブ（下の図のBとCのハブ）で行います。

beat-box3 のイーサネットポートは自動極性認識機能(AutoMDI/MDI-X)を備えているので、ストレートケーブル、クロスケーブルのいずれでも beat-box3 と他の機器を接続することができます。

■ 無線 LAN の構築

無線 LAN 構築に用いる機器類

無線 LAN には幾つかの規格があります。原理的には、同じ規格に基づく製品はメーカーが異なっても通信は可能ですが、同じメーカーで揃えた方が安心ですし、設定方法が同じであるというメリットもあります。

無線 LAN を利用する場合には、機密情報が漏れないようにするため、必ず暗号化を行うようにしてください。電波が届く範囲はオフィスの外にも及びます。暗号化しない場合、オフィスの外から LAN に侵入され、機密情報が盗まれることになります。暗号化は旧来の WEP という規格のほか、AES や TKIP などの規格があります。WEP は互換性が高いという特徴があり、AES や TKIP は暗号解読がされにくいという特徴があります。

無線 LAN 構築には、次の機器類が必要になります。

(a) 無線 LAN カード

有線 LAN のネットワークアダプタに相当するものです。ノート型 PC には内蔵されている場合もあります。その場合にはインストールする必要はありません。

次の種類があります。

i) PCI スロットタイプ

デスクトップ型 PC の場合にはこれが最も一般的です。もちろん、PCI スロットを1つ消費します。ほとんどの製品は、PCMCIA カードタイプの無線 LAN カードと、それを装着可能とするボードから構成されます。このタイプの LAN カードはデスクトップ型 PC の裏側に装着されるために、電波が届きにくくなることがあるので注意が必要です。

ii) USB 接続タイプ

デスクトップ型 PC でもノート型 PC でも使えます。古いタイプの PC で USB 端子が付いていない場合には使えません。また、ノート型 PC の場合には、USB 端子が1つしかない場合があり、そこにネットワークアダプタを接続するとマウスなどの他の機器との併用が難しくなります。USB 接続タイプの場合、その設置場所を比較的自由に変更できるため、無線 LAN 基地局からの電波が弱い場合に若干有利です。

iii) PCMCIA カードタイプ

装着には PCMCIA カードスロットが必要です。ノート型 PC の場合には、PCMCIA カードタイプが一般的です。

(b) 無線 LAN 基地局

無線 LAN の中心となる機器です。この基地局と、各 PC の無線 LAN カードの間で通信が行われます。基地局と beat-box 間は有線 LAN で接続してください。

基地局は、オフィス全体に電波が届く位置に設置する必要があります。

無線 LAN 基地局は電源を必要とします。

無線 LAN 構築

《無線 LAN 構築手順》

無線 LAN は次のような手順で構築します。

① 接続される機器の確認

無線 LAN で接続する機器の台数や、それぞれの位置を確認します。
次に、各機器に無線 LAN カードがなければ必要な無線 LAN カードのタイプを確認します。

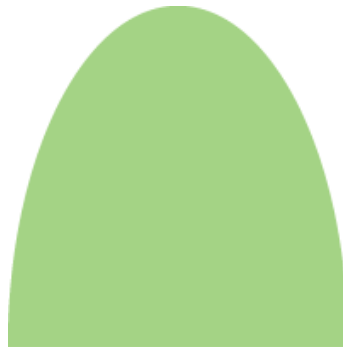
② ネットワーク機器の購入

必要な無線 LAN 基地局、無線 LAN カードなどを購入します。有線 LAN と併用する場合には、ネットワークケーブルとハブなども必要になります。beat-box に添付されているネットワークケーブルはカテゴリ5の長さ5mのストレートケーブルです。

③ 基地局の設置

beat-box に直接接続されたハブと無線 LAN 基地局をストレートケーブルで接続してください。もしくは beat-box と無線 LAN 基地局をストレートケーブルで接続してください。

④ 設定

無線基地局と無線 LAN カードに設定を行ってください。必ず WEP または AES や TKIP などの暗号化の設定を行ってください。

PC 初期設定編

7. PC 初期設定の概要

本編では、beat サービスを利用するための PC（Windows、Macintosh）の初期設定方法について説明しています。

■ 対応 OS について

beat サービスは、下記の Windows、および Macintosh に対応しています。

Windows

◎ Windows 2000
◎ Windows XP
◎ Windows Vista

および、上記以降に発売されたバージョンの Windows

Macintosh

◎ Mac OS X 10.3 以上

■ 設定内容について

PC で必要とする設定は、「ネットワークの設定」と「ブラウザの設定」です。ネットワークの設定は OS 別に、ブラウザの設定は使用するブラウザのバージョン別に説明しています。詳しくは各ページを参照してください。

◎ネットワークの設定

OS	ネットワークの設定
Windows	
Windows 2000	48 ページ参照
Windows XP	53 ページ参照
Windows Vista	59 ページ参照
Macintosh	
Mac OS X	76 ページ参照

◎ブラウザの設定

ブラウザの種類	ブラウザの設定
Windows	
Internet Explorer 6.x	66 ページ参照
Internet Explorer 7.x	70 ページ参照
Firefox 2.x	74 ページ参照
Macintosh	
Safari 1.x、2.x	79 ページ参照
Firefox 2.x	80 ページ参照

《設定の前に》
各設定にあたっては、次のことをご確認ください。
- ネットワーク環境が使えること（ネットワークアダプタやドライバのインストールなど）。
- Windows の場合、Windows インストール用のメディア（CD-ROM など）を用意しておく。
- 作業中のアプリケーションを終了し、ウィンドウを閉じておく。

8. Windows のネットワークの設定

beat-box に接続された PC からインターネットにアクセスするには、PC でネットワークの設定をする必要があります。
必要な設定は次のようになります。

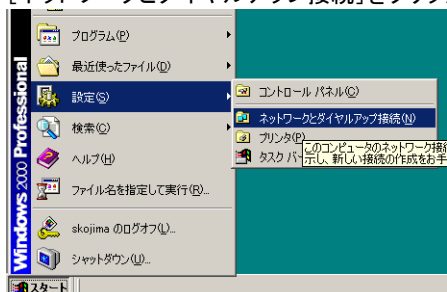
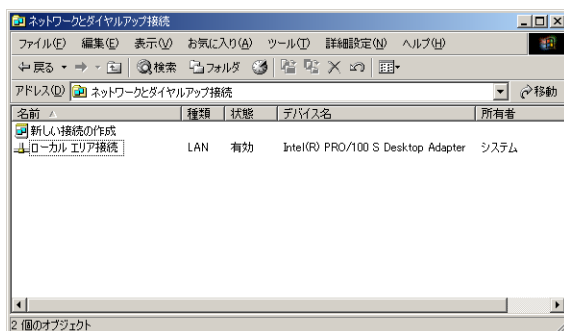
◎「TCP/IP アドレスの設定」
◎「DNS の設定」
◎「ゲートウェイの設定」
◎「WINS の設定」
◎「ワークグループの設定」

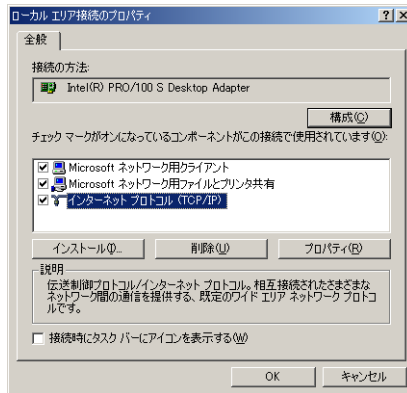
設定内容は使用する OS により多少異なります。ここでは、それぞれの OS 別に設定方法を説明しています。
ここでは、beat-box の DHCP 機能が使用されている場合の設定方法を説明します。お客様の環境によって設定方法が異なる場合があります。

■ Windows 2000

ネットワークの設定

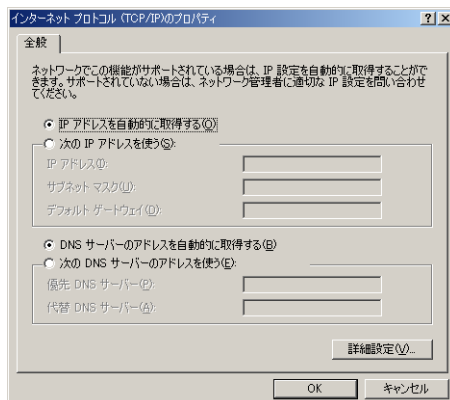
《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[設定]をポイントし、[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウが表示されます。

② [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックすると表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

ローカル エリア接続のプロパティ
全般
接続の方法:
Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter
構成(C)
チェック マークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています(O):
Microsoft ネットワーク用クライアント
Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
インターネット プロトコル (TCP/IP)
インストール(N)... 削除(U) プロパティ(R)
説明
伝送制御プロトコル/インターネット プロトコル。相互接続されたさまざまなネットワーク間の通信を提供する、既定のワイド エリア ネットワーク プロトコルです。
接続時にタスク バーにアイコンを表示する(W)
OK キャンセル

③ [チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています]欄に表示されている[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックします。
[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

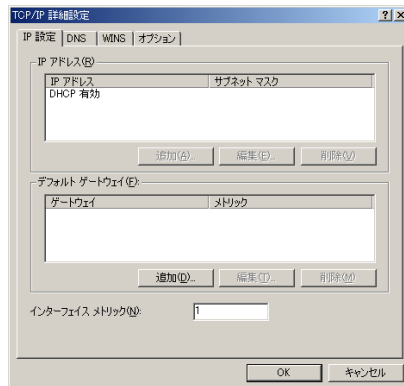
《こんな場合は》
下記のような場合は、[チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています]欄に[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> ダイヤルアップアダプタ]や[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> (インストールされているネットワークアダプタ名)]など、複数の TCP/IP が表示されます。
◎ダイヤルアップアダプタがインストールされている
◎複数のネットワークアダプタがインストールされている
この場合、対応するネットワークアダプタを選択して、先に進んでください。なお、ダイヤルアップアダプタは、本サービスではご使用できません。

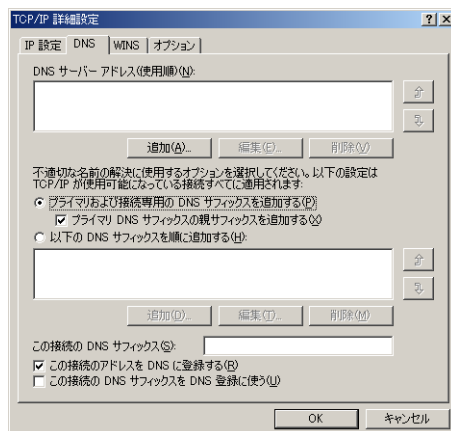
《注意》
[チェックマークがオンになっているコンポーネントがこの接続で使用されています]欄の中に、TCP/IP やアダプタが表示されていない場合は、この操作を行う前に、LAN アダプタ(ネットワークインターフェースカード)のインストールや TCP/IP プロトコルを追加を行ってください。

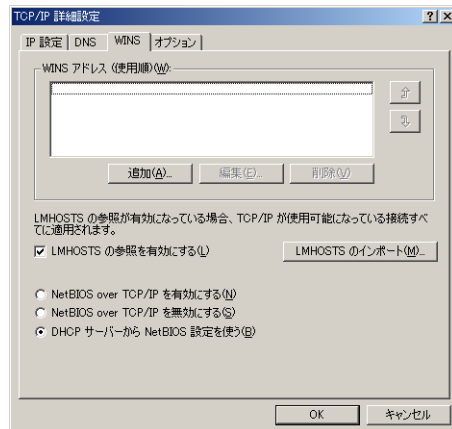
④ [インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]ダイアログボックスの[IP アドレスを自動的に取得する]と[DNS サーバのアドレスを自動的に取得する]をクリックして、選択します。

⑤ ［詳細設定］ボタンをクリックします。

［TCP/IP 詳細設定］ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示させ、次のように設定します。

●［IP 設定］パネル（ゲートウェイ）

ここでは何も変更しません。［デフォルトゲートウェイ］欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、［削除］ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●［DNS］パネル

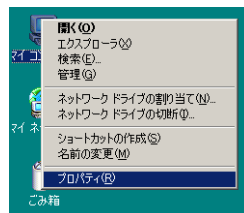
ここでは何も変更しません。［DNS サーバーアドレス（使用順）］欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、［削除］ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●[WINS]パネル

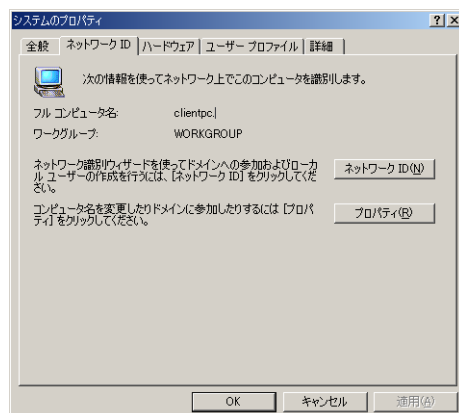
ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

⑥ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

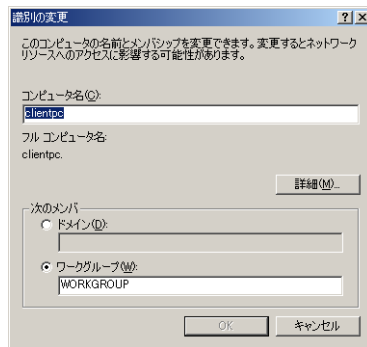
ワークグループの設定

TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

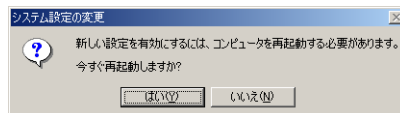
《操作手順》

① デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示されたメニューから、[プロパティ]を選択します。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

② [ネットワーク ID]タブをクリックします。

③ すでにネットワークをお使いの場合には、そのままの設定でかまいません。
ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、[ワークグループ]を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスすることができます。

●ワークグループを変更する場合
ワークグループを変更する場合は、[プロパティ]ボタンをクリックします。
[識別の変更]ダイアログボックスが表示されます。

必要に応じてコンピュータ名とワークグループ名を変更し、[OK]ボタンをクリックします。
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。

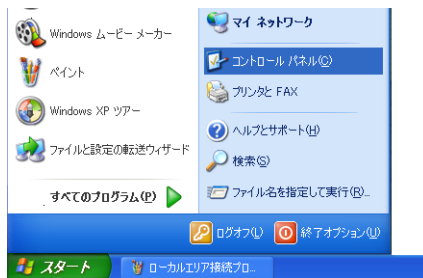
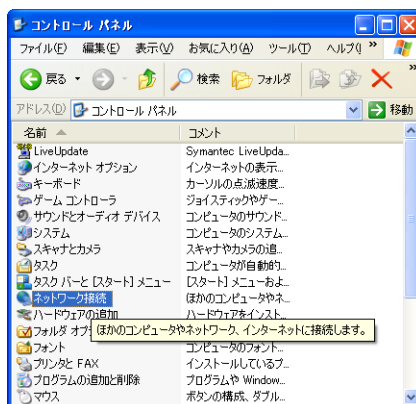
設定した内容が[システムのプロパティ]ダイアログボックスに表示されるので、コンピュータ名とワークグループ名を確認します。

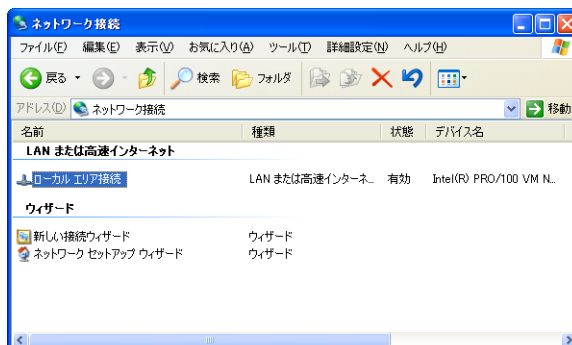
④ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックします。
ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。

[はい]ボタンをクリックすると、直ちにコンピュータが再起動されます。
ここで再起動したくない場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動を行ってください。

■ Windows XP

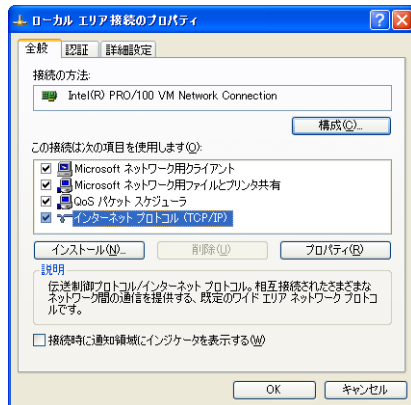
ネットワークの設定

《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

② [ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックします。
[ネットワーク接続]ダイアログボックスが表示されます。

> OS の設定によっては、ダブルクリックではなくシングルクリックで、[ネットワーク接続]ダイアログボックスが表示されます。

③ [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックして表示されたメニューから、[プロパティ]を選択します。

[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

④ [この接続は次の項目を使用します]欄の[インターネット プロトコル(TCP/IP)]アイコンをクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

《こんな場合は》

下記のような場合は、[この接続は次の項目を使用します]欄に[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> ダイヤルアップアダプタ]や[インターネット プロトコル(TCP/IP) -> (インストールされているネットワークアダプタ名)]など、複数の[インターネット プロトコル(TCP/IP)]が表示されます。

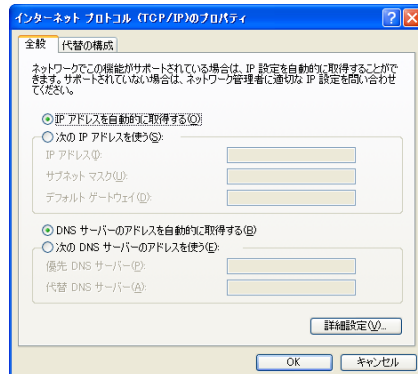
◎ダイヤルアップアダプタがインストールされている

◎複数のネットワークアダプタがインストールされている

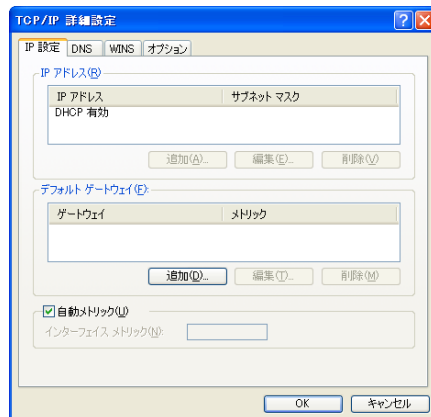
この場合は、対応するネットワークアダプタを選択してください。また、ダイヤルアップアダプタは選択しないでください。

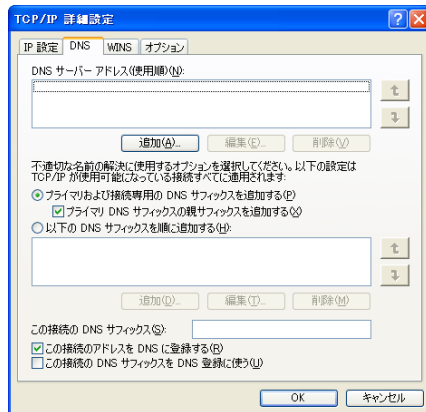
《注意》

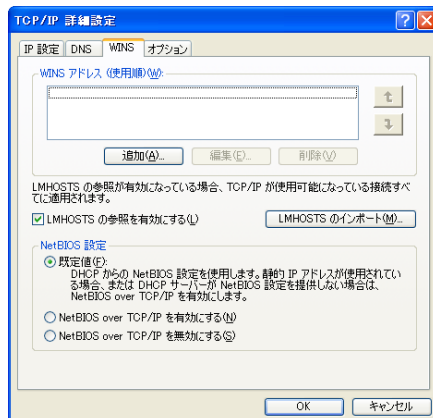
[この接続は次の項目を使用します]欄の中に、TCP/IP やアダプタが表示されていない場合は、この操作を行う前に、ネットワークアダプタのインストールや TCP/IP プロトコルを追加を行ってください。

⑤「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログボックスの[IP アドレスを自動的に取得する]と[DNS サーバのアドレスを自動的に取得する]をクリックして、選択します。

⑥ [詳細設定]ボタンをクリックします。

[TCP/IP 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示させ、次のように設定します。

●[IP 設定]パネル(ゲートウェイ)
ここでは何も変更しません。[デフォルトゲートウェイ]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●「DNS」パネル

ここでは何も変更しません。[DNS サーバーアドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●[WINS]パネル

ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

⑦ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

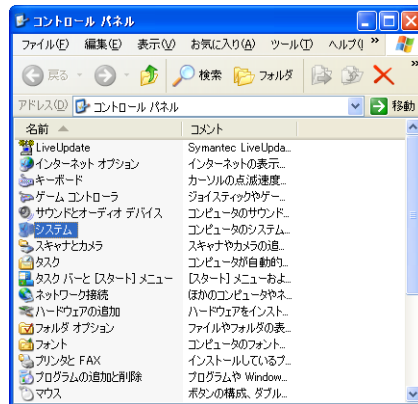
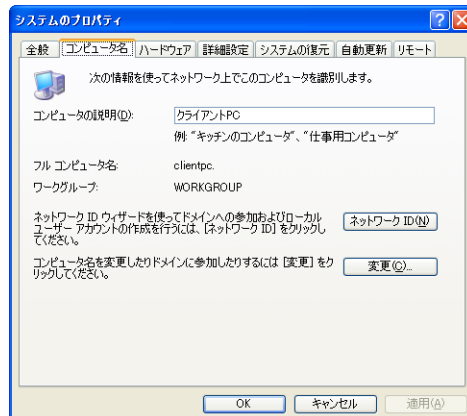
ワークグループの設定

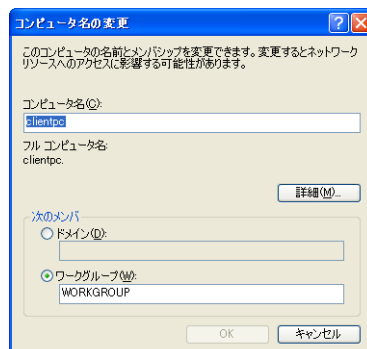
TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

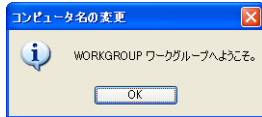
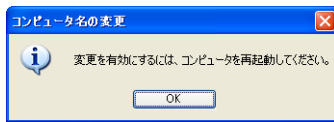
《操作手順》

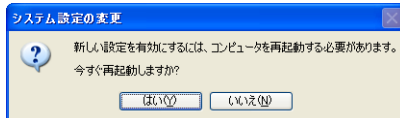
① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]を選択します。
[コントロール パネル]ウィンドウが表示されます。

② ［システム］アイコンをダブルクリックします。

OS の設定によっては、ダブルクリックではなくシングルクリックとなります。

［システムのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

③ すでにネットワークをお使いの場合には、そのままの設定でかまいません。
ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、［ワークグループ］を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスすることができます。

●ワークグループを変更する場合
ワークグループを変更する場合は、［変更］ボタンをクリックします。
［コンピュータ名の変更］ダイアログボックスが表示されます。

必要に応じて［コンピュータ名］と［ワークグループ］を変更し、［OK］ボタンをクリックします。

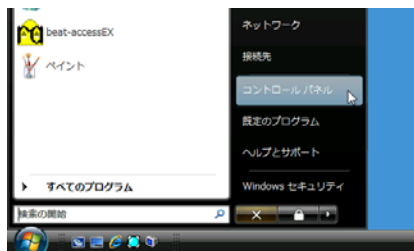
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスに設定した内容が表示されるので、[コンピュータ名]と[ワークグループ]を確認します。

④ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックします。
ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。

[はい]ボタンをクリックすると、直ちにコンピュータが再起動されます。
ここで再起動したくない場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動を行ってください。

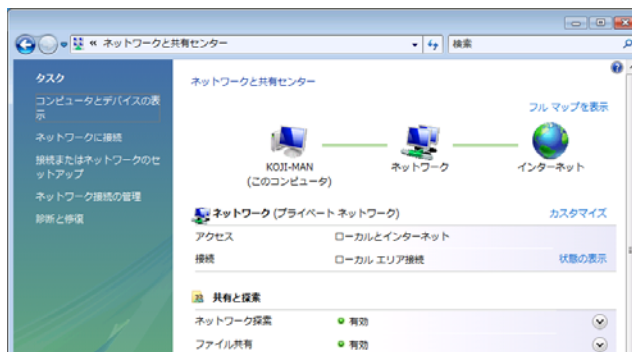
■ Windows Vista

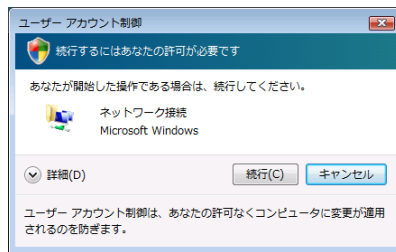
ネットワークの設定

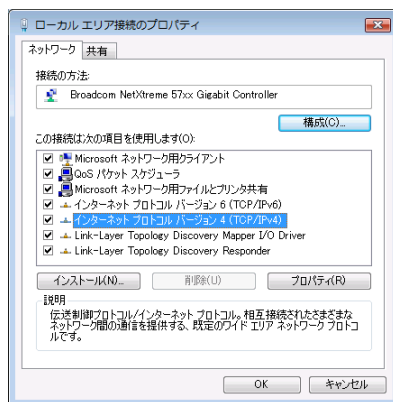
《操作手順》

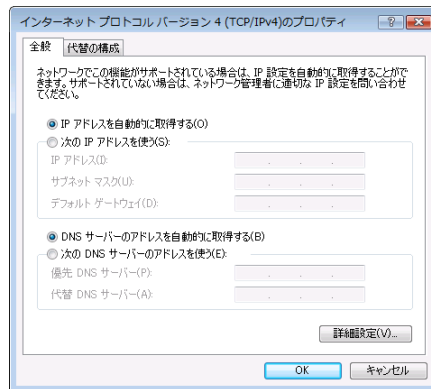
① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]をクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

② [ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックします。

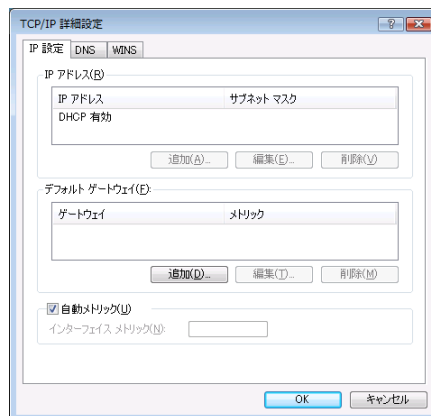
③ [ネットワーク(プライベート ネットワーク)]の[ローカル エリア接続]の右にある[状態の表示]をクリックします。

④ ［プロパティ］ボタンをクリックします。。

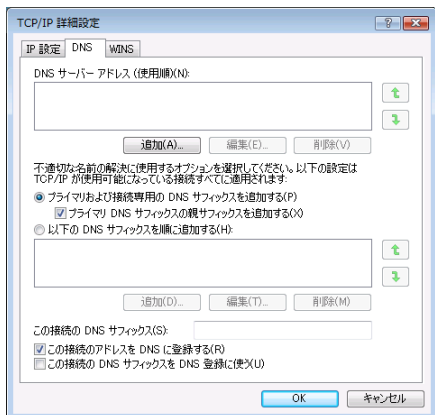
［ユーザー アカウント制御］ダイアログが表示されたら、［続行］をクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合には、管理者アカウントとパスワードを入力します。

［ローカルエリア接続のプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

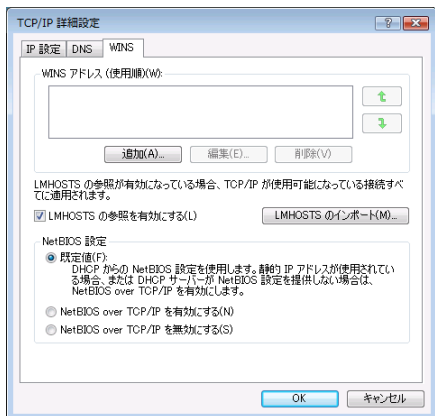
⑤ ［この接続は次の項目を使用します］欄の［インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）］アイコンをクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

《注意》
［この接続は次の項目を使用します］欄の中に、TCP/IP やアダプタが表示されていない場合は、この操作を行う前に、ネットワークアダプタのインストールや TCP/IP プロトコルを追加を行ってください。

⑥「インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）」ダイアログボックスの[IP アドレスを自動的に取得する]と[DNS サーバのアドレスを自動的に取得する]をクリックして、選択します。

⑦ [詳細設定]ボタンをクリックします。

[TCP/IP 詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。各パネルを表示させ、次のように設定します。

●[IP 設定]パネル（ゲートウェイ）
ここでは何も変更しません。[デフォルトゲートウェイ]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●「DNS」パネル

ここでは何も変更しません。[DNS サーバーアドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

●[WINS]パネル

ここでは何も変更しません。[WINS アドレス(使用順)]欄に何か表示されている場合は、項目を選択し、[削除]ボタンをクリックしてすべての項目を削除してください。

⑧ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

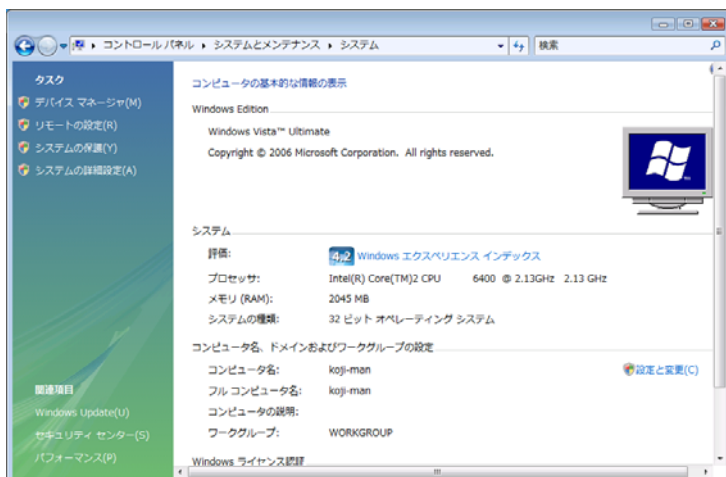
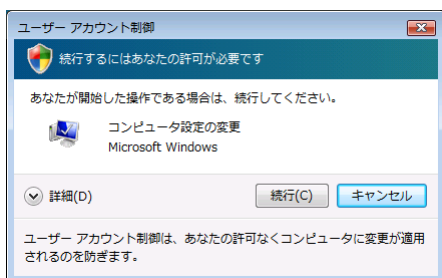
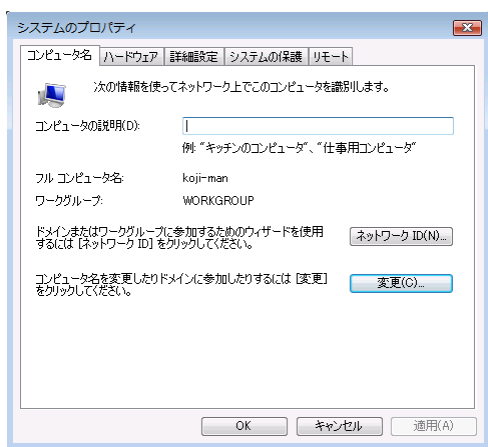
ワークグループの設定

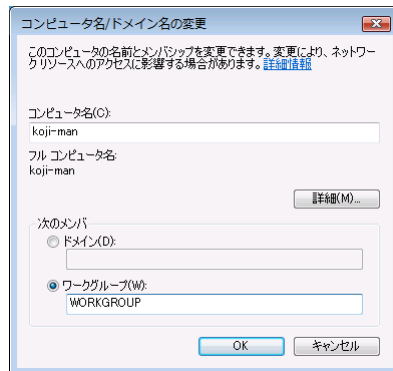
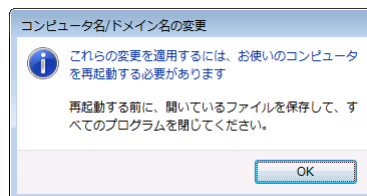
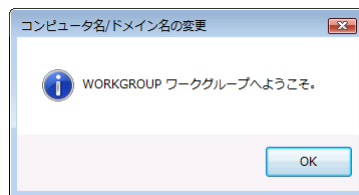
TCP/IP 関連の設定が終了したら、ワークグループを設定します。

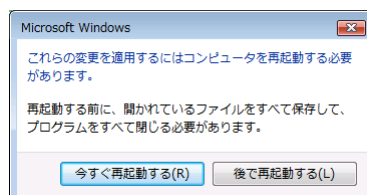
《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[コントロールパネル]を選択します。
[コントロール パネル]ウィンドウで、[システムとメンテナンス]をクリックします。

② [コンピュータの名前の参照]をクリックします。

[設定と変更]をクリックします。

[ユーザー アカウント制御]ダイアログが表示されたら、[続行]をクリックします。管理者権限以外のアカウントでログインしている場合には、管理者アカウントとパスワードを入力します。

[変更]ボタンをクリックします。

③ すでにネットワークをお使いの場合には、そのままの設定でかまいません。
ただし、beat サービスが提供するファイル共有サービスを利用する場合は、[ワークグループ]を“WORKGROUP”にしておくと、より簡単にアクセスすることができます。

●ワークグループを変更する場合
ワークグループを変更する場合は、[変更]ボタンをクリックします。
[コンピュータ名/ドメイン名の変更]ダイアログボックスが表示されます。

必要に応じて[コンピュータ名]と[ワークグループ]を変更し、[OK]ボタンをクリックします。
下記のようなダイアログボックスが表示されたら、それぞれ[OK]ボタンをクリックします。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスに設定した内容が表示されるので、[コンピュータ名]と[ワークグループ]を確認します。

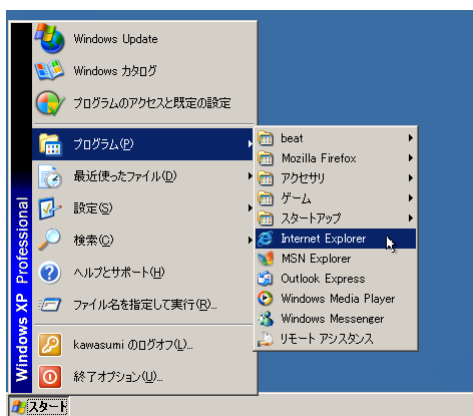
④ 以上の設定が完了したら、[システムのプロパティ]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックします。
ネットワークの修正があった場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。

[今すぐ再起動する]ボタンをクリックすると、直ちにコンピュータが再起動されます。
ここで再起動したくない場合は、[後で再起動する]ボタンをクリックし、他の作業を終了してから再起動を行ってください。

9. Windows のブラウザの設定

beat-box に接続された PC で、ホームページを閲覧するには、ブラウザの設定をする必要があります。
ネットワークの設定には、「プロキシサーバー設定」、「キャッシュ設定」、「JavaScript 設定」がありますが、設定方法は使用するブラウザやバージョンにより多少異なります。
ここでは、各ブラウザ別に設定方法を説明しています。
また、ブラウザの設定作業はネットワークの設定を完了してから行うようにしてください。

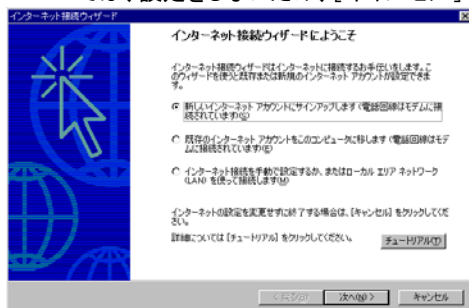
■ Internet Explorer 6.x

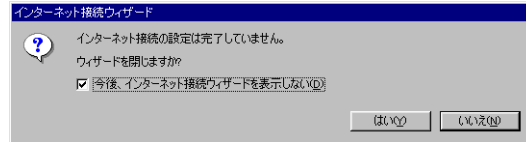
《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[プログラム]をポイントし、[Internet Explorer]をクリックします。

Internet Explorer が起動します。

《こんな場合は》

Internet Explorer をインストール後、初めて起動する場合は、[インターネット接続ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

1. ここでは、設定をしないため、[キャンセル]ボタンをクリックします。

2. 確認のダイアログボックスが表示されるので、[今後、インターネット接続ウィザードを表

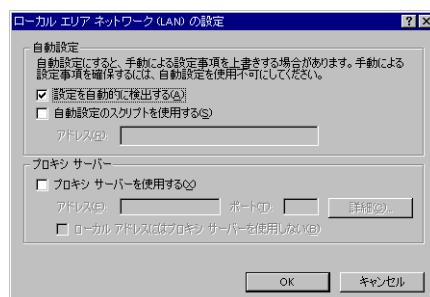
示しない]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

②の手順に進んでください。

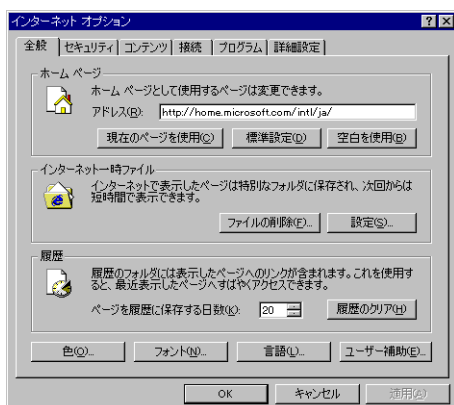
② Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。

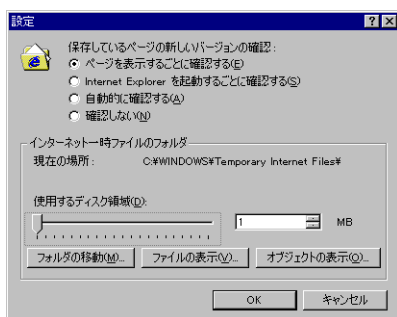
[インターネット オプション]ダイアログボックスが表示されます。

③ [インターネット オプション]ダイアログボックスの各タブをクリックして、各パネルを表示させ、次のように設定します。

●[接続]パネル(プロキシサーバー設定)

[LAN の設定]ボタンをクリックすると、[ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]ダイアログボックスが表示されます。
[プロキシサーバーを使用する]がチェックされている場合は、クリックしてチェックをはずし、[OK]ボタンをクリックします。

●[全般]パネル（キャッシュ設定）

[インターネット一時ファイル]欄の[設定]ボタンをクリックします。

[設定]ダイアログボックスが表示されます。

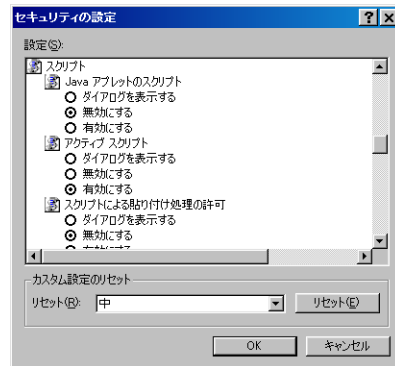
[ページを表示するごとに確認する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

●[セキュリティ]パネル（JavaScript 設定）

[Web コンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]欄で[インターネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。

同じく[Web コンテンツのゾーンを選択してセキュリティのレベルを設定する]欄で[イントラネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。

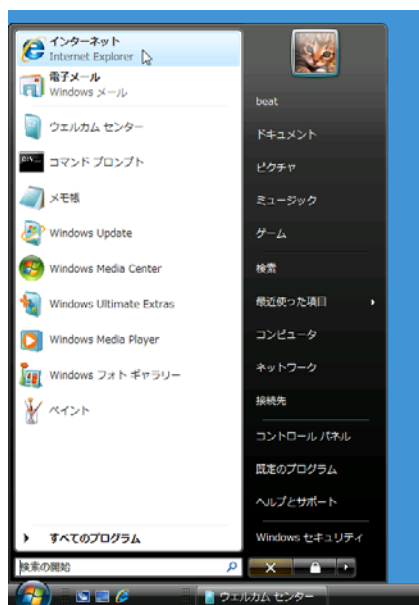
設定はつまみをドラッグして行います。

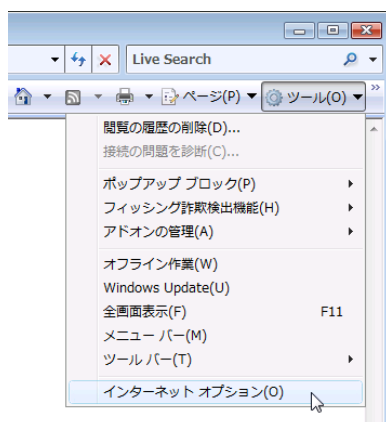
《こんな場合は》

すでにブラウザを使用していると、[このゾーンのセキュリティレベル]欄がカスタマイズレベルになっている場合があります。このときは、下記の手順に従ってください。
[このゾーンのセキュリティレベル]欄で[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。[セキュリティの設定]ダイアログボックスが表示されるので、[アクティブスクリプト]の[有効にする]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

④ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

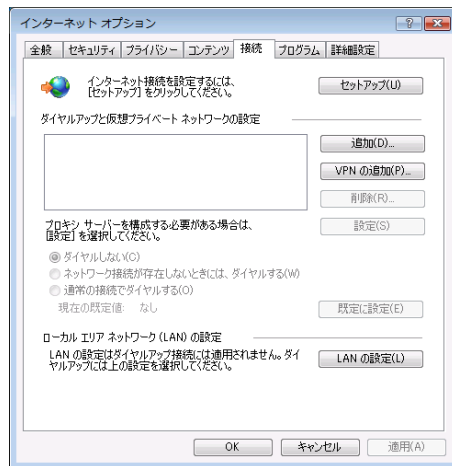
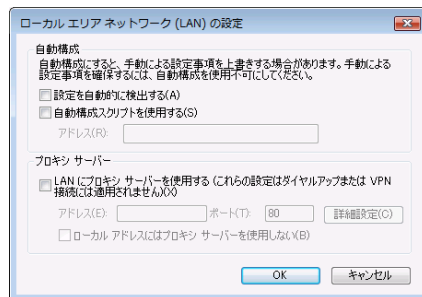
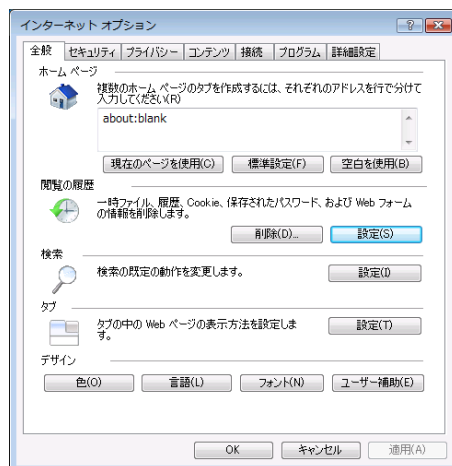
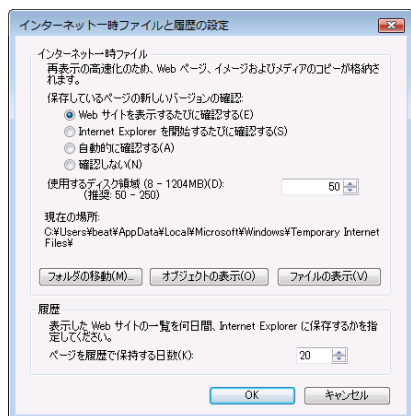
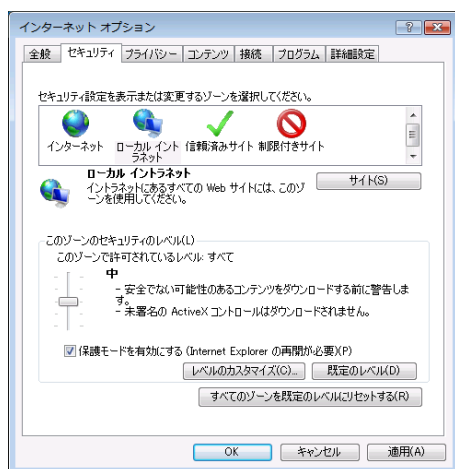
■ Internet Explorer 7.x

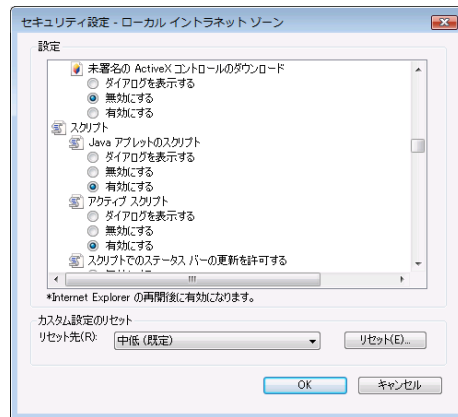
《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして[Internet Explorer]をクリックします。

Internet Explorer が起動します。

② Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]を選択します。

[インターネット オプション]ダイアログボックスが表示されます。

③ [インターネット オプション]ダイアログボックスの各タブをクリックして、各パネルを表示させ、次のように設定します。

●[接続]パネル(プロキシサーバー設定)

[LAN の設定]ボタンをクリックすると、[ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]ダイアログボックスが表示されます。
[LAN にプロキシサーバーを使用する]がチェックされている場合は、クリックしてチェックをはずし、[OK]ボタンをクリックします。

●[全般]パネル(キャッシュ設定)
[閲覧の履歴]欄の[設定]ボタンをクリックします。

[インターネット一時ファイルと履歴の設定]ダイアログボックスが表示されます。
[Web サイトを表示するたびに確認する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

●[セキュリティ]パネル(JavaScript 設定)
[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[インターネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中高」に設定します。
同じく[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください]欄で[ローカル イントラネット]を選択し、[このゾーンのセキュリティレベル]欄で「中」に設定します。
設定はつまみをドラッグして行います。

《こんな場合は》

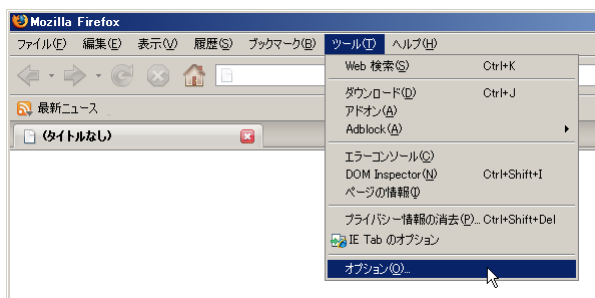
すでにブラウザを使用していると、[このゾーンのセキュリティレベル]欄がカスタマイズレベルになっている場合があります。このときは、下記の手順に従ってください。
[このゾーンのセキュリティレベル]欄で[レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。[セキュリティ設定]ダイアログボックスが表示されるので、[アクティブ スクリプト]の[有効にする]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

④ 設定が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

■ Firefox 2.x

《操作手順》

① Windows の［スタート］ボタンをクリックして表示されたメニューから、［プログラム］、［Mozilla Firefox］を順にポイントし、［Mozilla Firefox］をクリックします。

Firefox が起動します。

② Firefox の［ツール］メニューから［オプション］を選択します。

［オプション］ダイアログボックスが表示されます。

③ ［オプション］ダイアログボックスの各アイコンをクリックして、それぞれ次のように設定します。

●[詳細]の[ネットワーク]パネル
[接続設定]ボタンをクリックします。

[インターネットに直接接続する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

●[コンテンツ](JavaScript 設定)
[JavaScript を有効にする]にチェックを入れます。

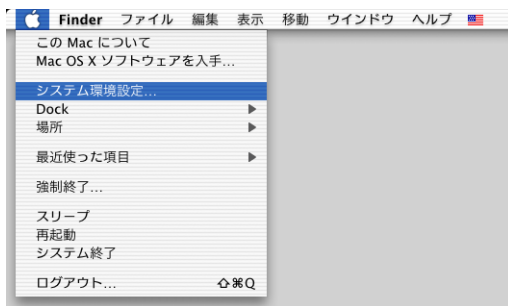
④ [オプション]ダイアログの[OK]ボタンをクリックします。

10. Macintosh のネットワークの設定

■ Mac OS X

Mac OS X をご使用の場合、Macintosh のシステム（ネットワーク）を次のように設定します。OS のバージョンによっては、以下の画面と若干異なる場合がありますが、基本操作は同じです。

《操作手順》

① アップルメニューの[システム環境設定…]を選択します。

[システム環境設定]ウィンドウが表示されます。

② [インターネットとネットワーク]欄の[ネットワーク]をクリックします。
[ネットワーク]ウィンドウが表示されます。

③ [場所]（OS のバージョンによっては[ネットワーク環境]）で[自動]を選択します。

> 《[自動]以外の選択項目がある場合》
> たとえば、PowerBook などで複数のネットワーク環境でも使用する場合など、複数の場所があるときは、beat サービスに接続する[場所]（OS のバージョンによっては[ネットワーク環境]）を選択してください。

④ [表示]で[内蔵 Ethernet]を選択します。

⑤ ［TCP/IP］タブをクリックします。［TCP/IP］パネルが表示されます。
［設定］（OS のバージョンによっては［IPv4 を設定］）で［DHCP サーバを参照］を選択します。

⑥ ［PPPoE］タブをクリックします。［PPPoE］パネルが表示されます。
［PPPoE を使って接続する］のチェックマークをはずします。

⑦ [AppleTalk]タブをクリックします。[AppleTalk]パネルが表示されます。
beat サービスに接続された Macintosh どうしで共有ファイルを使用する場合は、[AppleTalk 使用]にチェックマークをつけます。
Macintoshどうしで共有ファイルを使用しない場合は、[AppleTalk使用]にチェックマークをつける必要はありません。

⑧ [プロキシ]タブをクリックします。[プロキシ]パネルが表示されます。
すべての項目のチェックマークをはずしてください。
（OS のバージョンによっては、下図と画面が異なります。すべての項目のチェックマークをはずしてください。）

⑨ [今すぐ適用]ボタンをクリックします。

[今すぐ適用]ボタンをクリック後、[TCP/IP]パネルを見ると、IP アドレスが DHCP サーバより割り当てられたことを確認することができます。

⑩ [ネットワーク]ウィンドウのクローズボタンをクリックします。

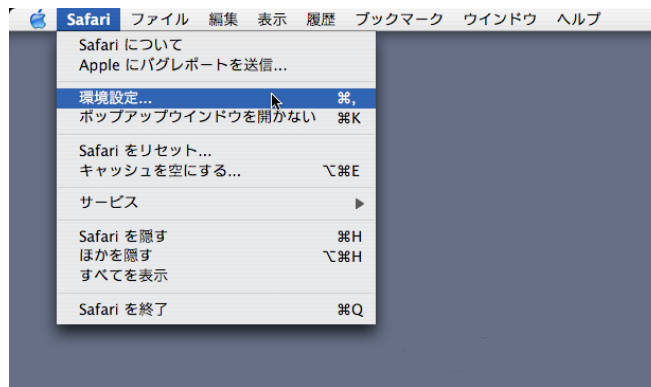
11. Macintosh のブラウザの設定

beat サービスを利用してインターネットのホームページを見るには、この章で説明する Web ブラウザの設定が必要です。
Web ブラウザにより設定方法が異なります。ご使用の Web ブラウザの設定をしてください。

■ Safari 1.x、2.x

《操作手順》

① Safari を起動します。

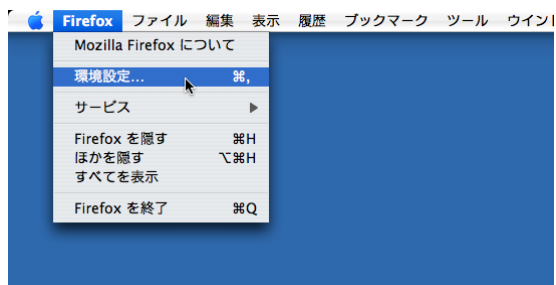
② [Safari]メニューの[環境設定…]を選択します。

③ [セキュリティ]をクリックして、[JavaScript を有効にする]にチェックマークをつけます。

④ ダイアログ左上の赤いクローズボタンをクリックします。

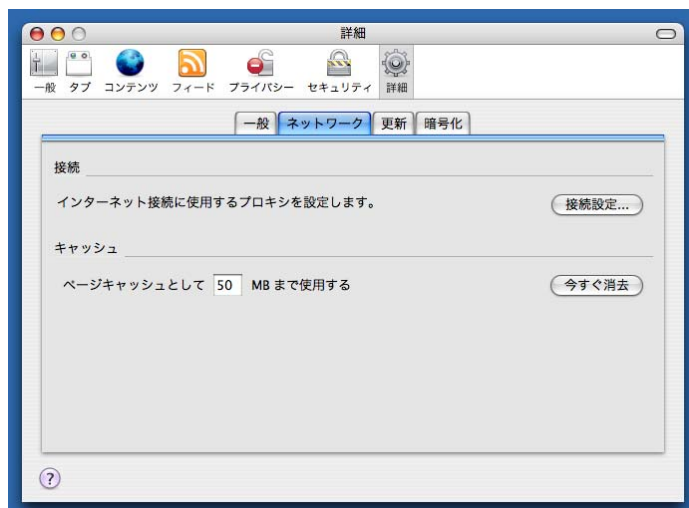
■ Firefox 2.x

《操作手順》

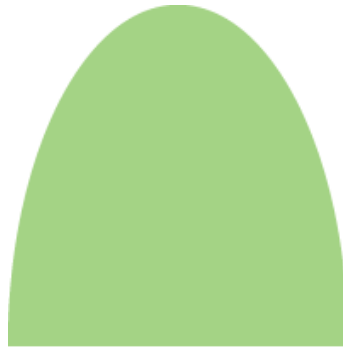
① Firefox を起動します。

② [Firefox]メニューから[環境設定]を選択します。

ダイアログボックスが表示されます。

③ ダイアログボックスの各アイコンをクリックして、それぞれ次のように設定します。

●[詳細]の[ネットワーク]タブ
[接続]の[接続設定]ボタンをクリックします。

［インターネットに直接接続する］をクリックして選択し、［OK］ボタンをクリックします。

●［コンテンツ］（JavaScript 設定）
［JavaScript を有効にする］にチェックを入れます。

④ ダイアログ左上の赤いクローズボタンをクリックします。

困ったときの対処編

12. 困ったときの対処の仕方

beat サービスをご利用中に使い方が分からなかったり、障害が発生した場合の方法について説明します。

■ オンラインヘルプ

beat-box には beat-noc（ネットワークオペレーションセンター）との連携により常に最新のオンラインヘルプとして操作マニュアルや FAQ などが用意されています。参照方法は PC のブラウザから下記の URL を入力して Enter キーを押し、右上の[ヘルプ]をクリックしてください。

URL ： http://beat-box:8080/

※お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、“http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/”（例：http://192.168.0.1:8080/）を入力してください。

■ beat コンタクトセンター

beat サービスでは、操作方法の問い合わせや障害復旧対処の窓口として「beat コンタクトセンター」を用意しております。また、障害内容によって販売者の指定する技術者の派遣が必要と判断された場合の派遣要請も行います。

■ beat-box と接続できない場合の対処

PC と beat-box が接続できていない場合にはオンラインヘルプを見ることはできません。本ガイドの「beat-box と接続できない場合の対処」では、その解決方法について説明しています。症状やご使用の PC の OS に該当するページを参考に、PC の設定を行ってください。これにより、オンラインヘルプを参照できるようになります。

■ beat お客様サポートサイト

beat お客様サポートサイトでは、beat サービスに関連する最新情報、困った時の FAQ、メールでの問い合わせ先などの情報を掲載しています。

http://net-beat.com/support/

13. beat コンタクトセンターとは

beat サービスをご利用中に使い方が分からなかったり、障害が発生した場合の問い合わせ窓口です。
また、beat コンタクトセンターでは beat-noc（ネットワークオペレーションセンター）との連携によりお客様の利用環境を維持・管理しています。

■ beat コンタクトセンターからお客様へ

beat コンタクトセンターでは、beat-noc（ネットワークオペレーションセンター）からお客様の利用環境に関する障害情報を取得した場合に、お客様に対して障害発生の報告と状況確認の為に電話にて連絡する事があります。その際には円滑な復旧作業の為に以下の内容をお尋ねします。

1） ブロードバンド回線とブロードバンモデムの接続状態
2） ブロードバンモデムと beat-box の接続状態
3） ブロードバンモデムの表示
4） beat-box 正面の LED インジケータの表示コードやランプの点灯状態

■ お客様から beat コンタクトセンターへ

お客様から beat コンタクトセンターをご利用になる場合には以下の内容をお知らせください。

1） お客様の会社名、氏名、連絡先（住所・電話番号など）
2） beat-box のシリアル番号（6 桁の数値で、beat-box の上面と側面に貼付してあります）
3） beat-box 正面の LED 表示コードやランプの点灯状態
4） 使用している PC の OS
5） 現在の状態（エラーメッセージやその状態になった時の操作内容）

（お客様へのお願い）
beat コンタクトセンターでは、beat サービス以外の問い合わせ（PC やソフトの操作、接続機器などの設置・設定など）につきましては、お応えできかねますので購入先の販売店・メーカーのサポートセンターへお問い合わせください。

beat コンタクトセンター（電話などでのお問い合わせ）

受付窓口	0120-126414	（電話）
	03-3378-6321	（FAX）
受付時間	8:00～21:00	（平日）
	9:00～18:00	（土、日、祝祭日、12 月 31 日～1 月 3 日）

※ beat コンタクトセンターからのご連絡は 9:00 以降とさせていただきます。

（ご注意）
平日 18:00 以降と土、日、祝祭日の障害対応で販売者の指定する技術者の派遣が必要となった場合には、弊社の翌営業日の派遣要請となります。

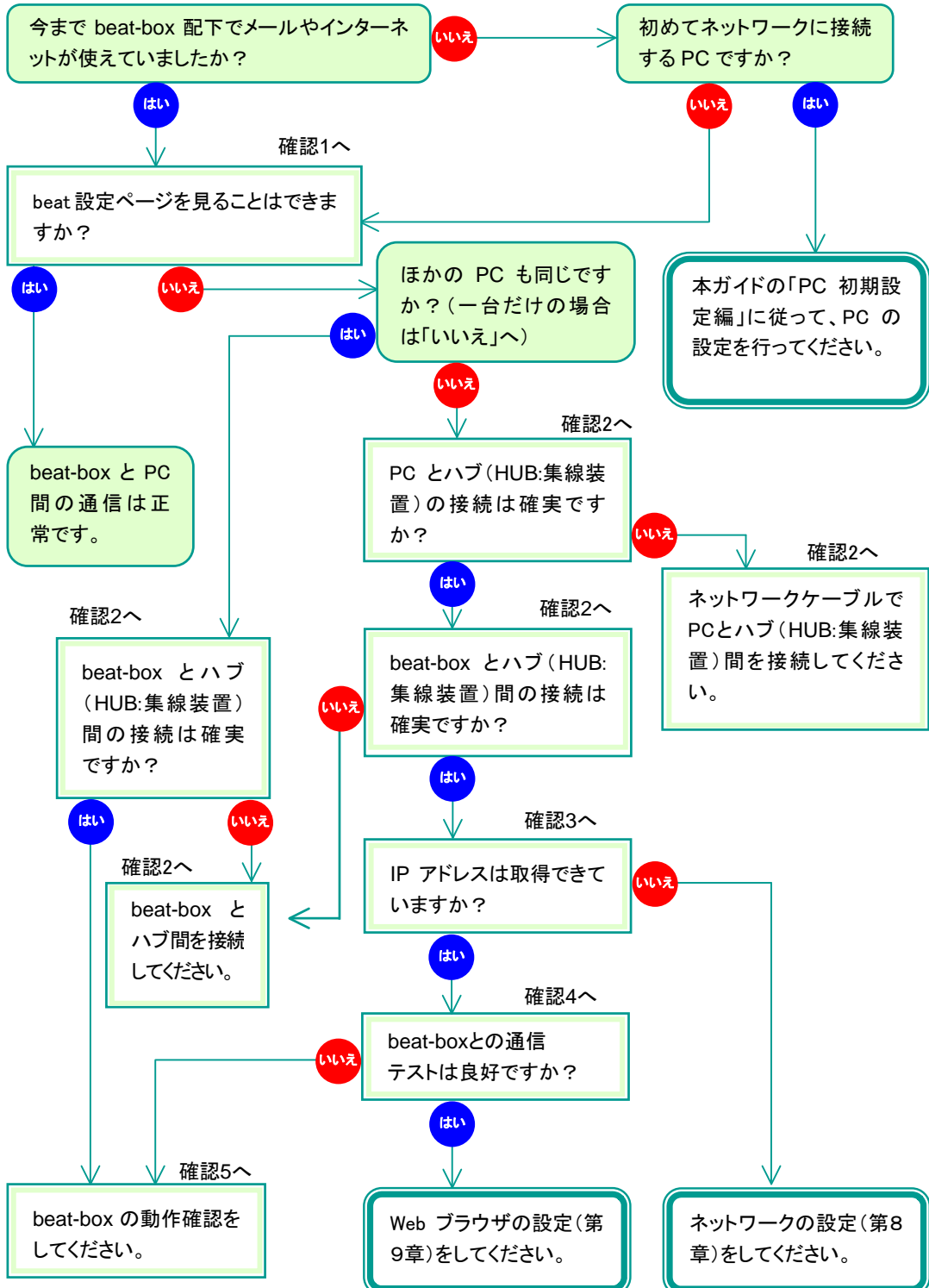
beat お客様サポートサイト（オンラインでのお問い合わせや FAQ など）
http://net-beat.com/support/

14. beat-box と 接続できない場合の対処

本章では、PC から beat-box へ接続するまでの対処方法について説明しています。
対処方法が使用している PC の OS やブラウザソフトによって異なる部分がありますので、該当するページを参照してください。

■ 目次

■ トラブル解決フロー

には本章に確認ページがあります。　は本ガイドの他の章を参照してください。

■　確認 1. beat 設定ページを見る

Internet Explorer の場合

《操作手順》

①　Internet Explorer を起動します。

②　アドレス欄に“http://beat-box:8080/”を入力し Enter キーを押します。

《解説》
お客様のネットワーク環境によっては、この URL ではアクセスできない場合があります。この場合、
“http://<beat-box の LAN 側 IP アドレス>:8080/”（例：http://192.168.0.1:8080/）を入力してください。

上記のように画面が表示されれば、beat-box までの通信ができている事になります。

上記のような画面が表示された時は正しく beat-box までの通信ができていないか、ブラウザの設定に誤りがあります。

■ 確認2.機器の接続方法

PC を起動した時に次のメッセージが出る場合には、下記のいずれかの接続が外れている可能性があります。

接続図、機器の接続方法

ブロードバンド回線へ接続します。

モデム

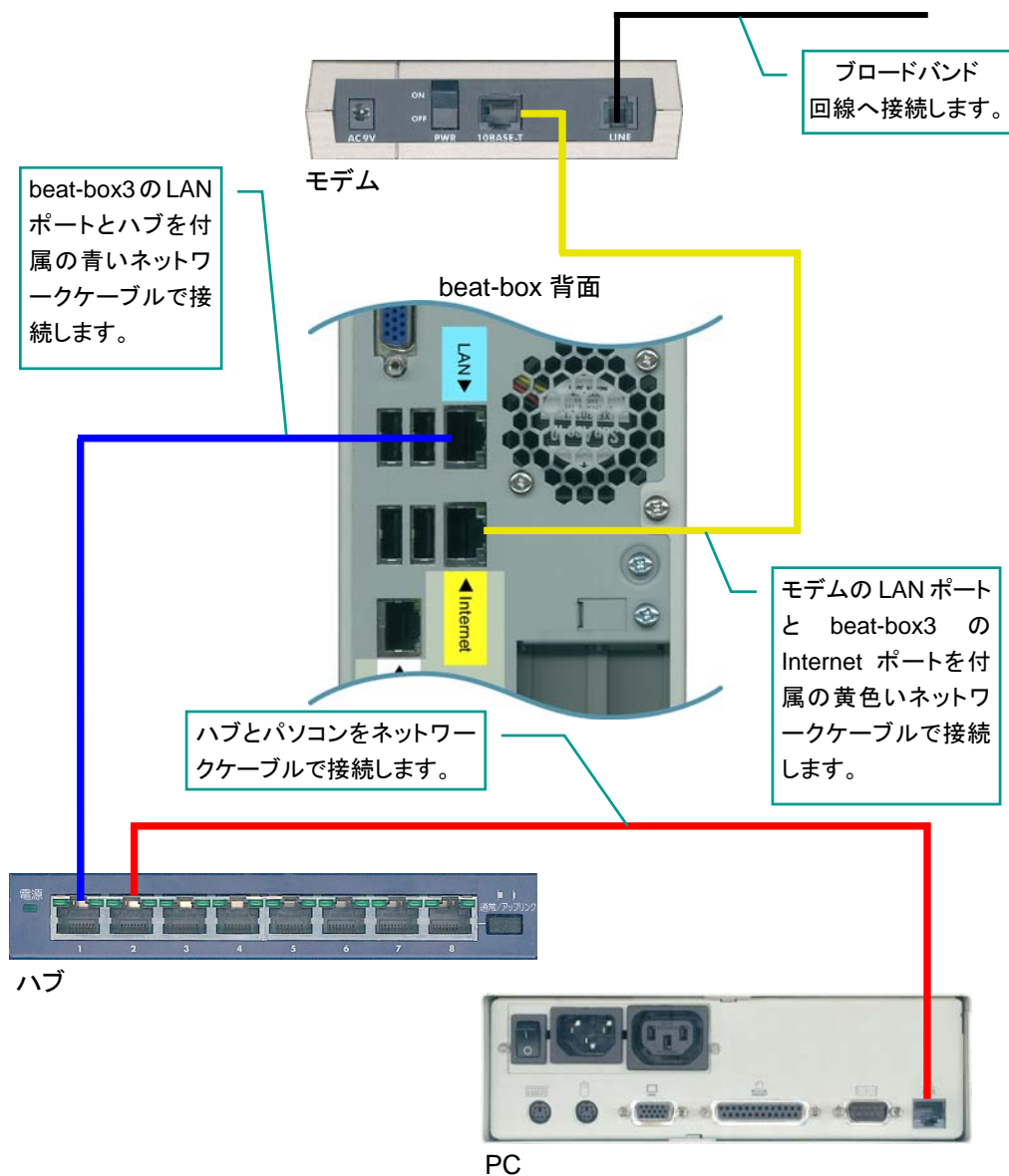
beat-box3 の LAN ポートとハブを付属の青いネットワークケーブルで接続します。

beat-box 背面

モデムの LAN ポートと beat-box3 の Internet ポートを付属の黄色いネットワークケーブルで接続します。

ハブとパソコンをネットワークケーブルで接続します。

ハブ

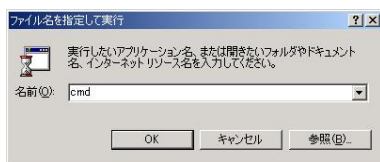
PC

■ 確認 3. IP アドレス取得状況の確認方法

Windows 2000 の場合

《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

[ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。

② [名前]欄に“cmd”と入力して[OK]ボタンを押します。

MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。

③ MS-DOS プロンプトに“ipconfig”と入力して Enter キーを押します。

MS-DOS プロンプトウィンドウにある[IP Address]、[Subnet Mask]、[Default Gateway]にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

《こんな場合は》
[IP アドレス]が 0.0.0.0 になっている時は“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得しなおします。取得しなおしても[IP アドレス]の数値が変わらない時は、機器との接続、ネットワークの設定をご確認ください。

Windows XP の場合

《操作手順》

① Windows の［スタート］ボタンをクリックして表示されたメニューから、［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

② ［ファイル名を指定して実行］ウィンドウが表示されます。
［名前］欄に“cmd”と入力して［OK］ボタンを押します。

③ MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。
MS-DOS プロンプトに“ipconfig”と入力して Enter キーを押します。

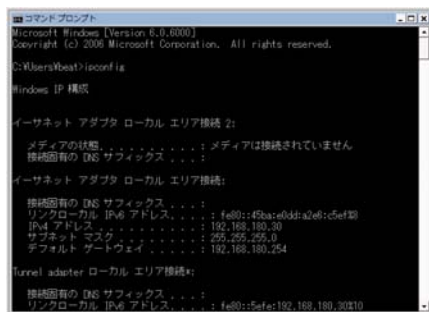
MS-DOS プロンプトウィンドウにある［IP Address］、［Subnet Mask］、［Default Gateway］にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

《こんな場合は》
［IP アドレス］が 0.0.0.0 になっている時は“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得しなおします。取得しなおしても［IP アドレス］の数値が変わらない時は、機器との接続、ネットワークの設定をご確認ください。

Windows Vista の場合

《操作手順》

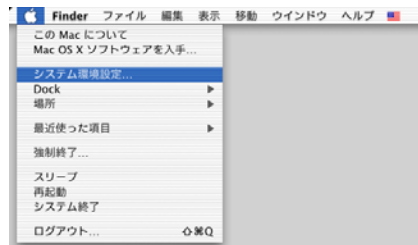
① Windowsの[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト]を順にクリックします。

② MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。
MS-DOS プロンプトに“ipconfig”と入力して Enter キーを押します。

MS-DOS プロンプトウィンドウにある[IPv4 アドレス]、[サブネット マスク]、[デフォルト ゲードウェイ]にアドレスが表示されていれば、正しく IP アドレスを取得できています。

《こんな場合は》
[IPv4 アドレス]が 0.0.0.0 になっている時は“ipconfig /renew”と入力して Enter キーを押し、IP アドレスを取得しなおします。取得しなおしても[IP アドレス]の数値が変わらない時は、機器との接続、ネットワークの設定をご確認ください。

Mac OS X の場合

《操作手順》

① アップルメニューから、[システム環境設定]を選択します。

[システム環境設定]ウィンドウが表示されます。

② [インターネットとネットワーク]の[ネットワーク]をクリックします。
[ネットワーク]ウィンドウが表示されます。

[TCP/IP]タブをクリックします。[TCP/IP]パネルが表示されます。
IP アドレスが取得できている時は、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[ルータ]にアドレスが入ります。

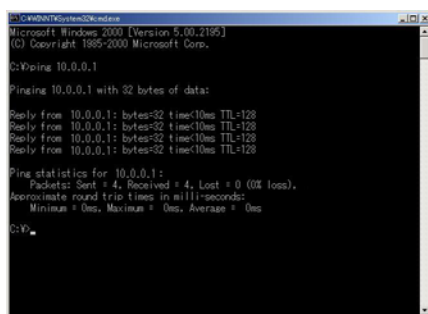
■　確認 4.　beat-box との通信テスト方法

Windows 2000 の場合

《操作手順》

① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

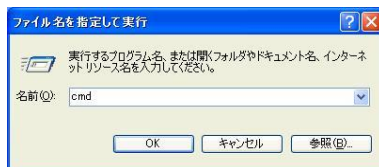
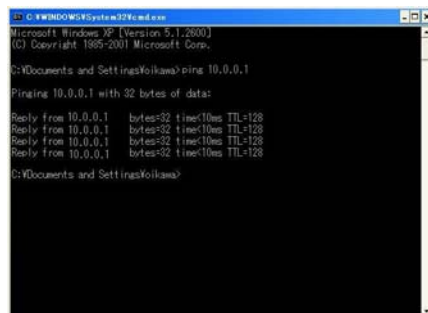
② [ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。
[名前]欄に“cmd”と入力して[OK]ボタンを押します。

③ MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。
MS-DOS プロンプトに“ping ＜beat-box ドメイン＞”(または、“ping ＜beat-box の LAN 側 IP アドレス＞)を入力して Enter キーを押します。

図のように「Reply from ×.×.×.× bytes=32 time<10ms TTL=128」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「Destination host unreachable、Request timed out」などと表示された時は、ネットワークの設定、接続をご確認ください。

Windows XP の場合

《操作手順》

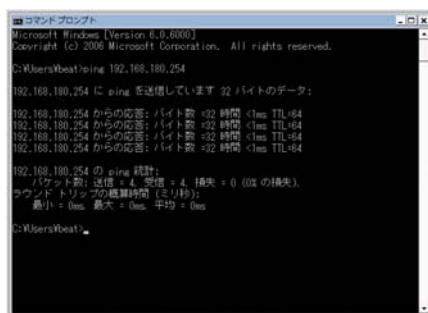
① Windows の[スタート]ボタンをクリックして表示されたメニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

② [ファイル名を指定して実行]ウィンドウが表示されます。
[名前]欄に“cmd”と入力して[OK]ボタンを押します。

③ MS-DOS プロンプトウィンドウが表示されます。
MS-DOS プロンプトウィンドウに“ping ＜beat-boxドメイン＞”(または、“ping ＜beat-box の LAN 側 IP アドレス＞)を入力して Enter キーを押します。

図のように「Reply from ×.×.×.× bytes=32 time<10ms TTL=128」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「Destination host unreachable、Request timed out」などと表示された時は、ネットワークの設定、接続をご確認ください。

Windows Vista の場合

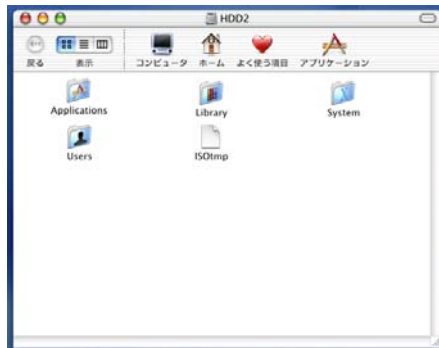
《操作手順》

① Windowsの[スタート]ボタン、[すべてのプログラム]、[アクセサリ]、[コマンド プロンプト]を順にクリックします。

② コマンド プロンプトウィンドウが表示されます。
コマンド プロンプトウィンドウに“ping ＜beat-box ドメイン＞”(または、“ping ＜beat-box の LAN 側 IP アドレス＞)を入力して Enter キーを押します。

図のように「×.×.×.× からの応答: バイト数 =32 時間 <10ms TTL=64」のように表示されていれば、beat-boxとの通信ができています。「要求がタイムアウトしました」などと表示された時は、ネットワークの設定、接続をご確認ください。

Mac OS X の場合

《操作手順》

① Macintosh のハードディスクを開きます。ハードディスク名はお客様の PC によって異なります。

《注意》
Mac OS X のバージョンによっては、下記の操作手順におけるアイコンの表記やタイトルが英語であったり日本語であったりします。その場合は、適宜読み替えて操作するようお願いします。

② ハードディスク内の[アプリケーション(Application)]をダブルクリックします。
[アプリケーション(Application)]ウィンドウが表示されます。

③ [アプリケーション]ウィンドウ内の[ユーティリティ(Utilities)]をダブルクリックします。
[ユーティリティ(Utilities)]ウィンドウが表示されます。

④ ［ユーティリティ（Utilities）］ウィンドウ内の［Network Utility］をダブルクリックします。
［Network Utility］ウィンドウが表示されますので、［Ping］タブをクリックします。

［pingコマンドを送信するネットワークアドレスを入力してください］の欄にbeat-boxのIPアドレス（例：「192.168.0.1」）を入力します。入力が終わりましたら［Ping］のボタンをクリックします。

図のように「ttl=254　time=4.174ms」のように表示されていれば、beat-box との通信ができています。「100%　packet　loss」などと表示された時は、ネットワークの設定、接続をご確認ください。

■ 確認 5. beat-box のステータスコード

ステータスコード

ステータスコードは beat-box の動作状態を表します。正常動作時は、ステータスコードを表示するLEDランプの外周が時計回りのアニメーション表示をします。異常時には、ステータスコードを表示します。ステータスコードを表示する際には、次に示すように、まず"- - -"を表示し、次に発生している1つ以上のステータスコードを順に表示するというサイクルを繰り返します。

主なステータスコード

コード	ステータス	対処
外周が時計回りのアニメーション表示	正常動作	不要
L13	主回線（Internet ポート）の LAN ケーブル接続不良	LAN ケーブルが正しく接続されているか、ご確認ください。
J13	副回線（Option NIC ポート）の LAN ケーブル接続不良	
L14	LAN（LAN ポート）の LAN ケーブル接続不良	
L15（J15）	PPP による DHCP 不能	回線終端装置（ADSL モデム・ONU など）またはルーターを再起動し、10 分ほど様子を見て下さい。 それでも本ガイドのに記載されている電源オフ／電源オンの方法にしたがって、beat-box3 を再起動してください。 ※「Lxx」のステータスコードは、ご契約の ISP、またはインターネット接続回線のサービスに障害が発生している場合にも表示されます。 ※「Jxx」のステータスコードは、「beat 回線二重化設定サービス（オプション）」をご契約の beat-box において、副回線に通信障害が発生している場合に表示されます。
L16（J16）	beat-box が DHCP で IP アドレスを受け取れない	
L17（J17）	beat-box が固定 IP アドレスで通信できない	
L19（J19）	beat-box から先、ISP までのいずれかの障害	
L20（L20）	ルータから先、インターネットまでのいずれかの障害	
L21（J21）	ISP 障害（認証時）	
L22（J22）	ISP 障害もしくは beat-noc 障害	
L23（J23）	ISP 認証失敗	
L24（J24）	ISP と beat-box の固定 IP アドレス不一致	
L25（J25）	ISP 障害（非認証時）	
L26（J26）	ISP とインターネット間の接続障害	
L27	beat-noc とインターネット間の接続障害	
L50	スポーク拠点応答なし	ハブ拠点のみに表示されます。 スポーク拠点に通信障害が発生していて接続できない場合のほか、自拠点に通信障害が発生している場合にも、他のコードと共に表示されます。
L51	ハブ拠点応答なし	スポーク拠点のみに表示されます。 ハブ拠点に通信障害が発生していて接続できない場合のほか、自拠点に通信障害が発生している場合にも、他のコードと共に表示されます。
J01	副回線でインターネット接続中	「回線二重化拡張機能」をご契約の beat-box のみに表示されます。
Axx　Pxx	beat-box が起動中	長時間（15 分以上）表示される場合には beat コンタクトセンターにご連絡ください。
Exx	beat-box のリソース不足	beat コンタクトセンターへご連絡ください。
Hxx	beat-box のハードウェア障害	
その他のコード	その他の異常状態	

■ 控えておきましょう

● beat-box の設定

設定項目	設定内容	設定例
IP アドレス	＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿	10.0.0.1
サブネットマスク	＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿ （通常は beat-box のアドレスになります）	10.0.0.1
DNS	＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿.＿＿＿ （通常は beat-box のアドレスになります）	10.0.0.1
ドメイン名	＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	fujixerox.co.jp

● 電子メールの設定

設定項目	設定内容	設定例
受信（POP）サーバー	＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	sibuya.fujixerox.co.jp
送信（SMTP）サーバー	＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	sibuya.fujixerox.co.jp

(注：受信・送信サーバーとも、beat 設定ページのメールクライアント設定で表示されます）

● その他サーバーの設定

設定項目	設定内容	設定例
プロキシサーバー	設定しません	
ニュース（NNTP）サーバー	設定しません	

● その他

項目	連絡先	担当者
ブロードバンドの通信会社		

項目	メーカー名／型式・型番	連絡先
ADSL モデム		

項目	ID	パスワード
ISP の設定		

beat コンタクトセンター

受付窓口　0120-126414（電話）
03-3378-6321（FAX）

受付時間　8:00 ～ 21:00（平日）
9:00 ～ 18:00（土、日、祝祭日、
12月31日～1月3日）

※ beat コンタクトセンターからのご連絡は
9:00 以降とさせていただきます。

beat お客様サポートサイト

http://net-beat.com/support/

6 版
2007 年 10 月
帳票 No. beat0049

富士ゼロックス株式会社